京城日報

本紙定價 壹部金五錢 壹箇月金七十五錢
廣告料金
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社
電話番號

十二月五日夕刊 (朝夕併せて八頁)

◇聯合國對露行動 嚴寒季と軍事行動の困難

聯合各國の對西伯利政策は軍事行動の下に一切解決の端を開かんことを期しつゝあり講和會議の決議に基づき對露政策の新決定を見る可きも目下の所過激派の暴動抑止に努力しつゝあるが如く現に浦鹽に上陸せる米兵六千餘名も近く西進す可く佛兵はオデッサ方面よりキエーフに英兵は高加索方面よりドン地方に進出したるも目下嚴寒季にあるを以て實際の軍事行動は非常に困難を感じつゝあるが如し(東京特電)

◇戰爭誘起責任調査要請 伯林政府五國政府に公文交附

二日巴里發某所著電=瑞西電報に據れば伯林政府は十一月三十日瑞西政府の仲介にて英、佛、白、伊、米五箇國政府に對し大要左の公文を送附せり(東京特電)

平和恢復及び將來の戰爭防止の保證並に國民相互の信頼を恢復する爲め各交戰國に於て戰爭を誘起したる事實を發表する事緊急と認む、同盟國並に敵國に於て主張せられたる各種の主義と將來各民族を融和す可き豫備條件とを明確にするは恒久平和と國際聯盟とを可能ならしむる唯一の基礎なり而して戰爭の責任問題を調査せん事を要請す

◇米國政府の成功

巴里來電に曰く米國政府は聯合國政府がウイルソン大統領聲明の十箇條中一箇條を留保し一箇條を附加して之を承諾したるにより茲に無上の成功を收めたり(倫敦電報)

◇反過激主義優勢

憲法制定會議の召集を賛し過激主義に反對するの意見獨逸全國を通じ次第に勢力を得つゝありエベルト首相宣言に曰く憲法會議總會は時局に至大の關係あり海軍水兵會議は政府の政策を援助し普通選擧を基礎とし憲法會議々員選擧に賛成せり一方南獨逸にては反普魯西感情增加し一般に獨裁主權に反對の意嚮あり(ストツクホルム電報)

◇獨聯邦會議決議

獨逸聯邦會議は七十名の代表出席したるが中には陸海軍兵士の代表も加はりたり首相エベルトは將來勞働者陸海軍兵士も政權に參與せしむる必要あるを聲明せり該會議は舊聯邦制に多少の改正を加へ獨逸の統一を圖る目的にて速かにフランクフルトに全日耳曼會議を召集し墺國代表者を參加せしむる決議をなせり(巴里電報)

◇前獨帝引渡權能

英國司法官憲は聯合國に前獨帝引渡要請の權ありと思考し居れるが和蘭政府は獨逸政府の承認を得ずんば前帝を引渡すの權能無しと主張し居れり(倫敦電報)

◇前獨皇帝引渡要求と米國

華盛頓來電=歐洲聯合國が和蘭に對し獨逸前皇帝を引渡す可しと要求せんとするに就き米國々務省は右要求に參加せざる可き旨を暗示せり(桑港電報)

◇勃國皇太子即位

華盛頓駐剳勃牙利公使館員の陳述に據れば勃牙利には過激主義跡を止めず皇太子ボリス帝位に上り首相にはマリノフ外相にはテオドロフ就任し居れり(紐育電報)

◇米大統領の教書

新議會開會の日に當りウイルソン大統領の朗讀したる教書は滔々數千萬言にして先づ米國の總兵數が一年前の十四萬五千九百十八人に比し今や百九十五萬五百十三人に達せるを述べ次に米兵の卓越せる能力に由り今回の勝利を得たる事を賞讃し這は偉大なる國民の後援に因るものにて婦人の功績も亦大なり婦人の今回の活動は男子と同等の政治上の權利を得せしめ得る事を證せりと言ひ更に講和の大事業に就き論述し尙産業動員解除、中歐の窮餓救濟方法等に就き詳細に亘り其方法を縷述し又白耳義北佛地方が戰前の狀態恢復迄救濟を繼續する必要あるを述べ尙戰時稅の撤廢海軍計畫遂行の意思なる事及び自身渡歐の理由を述居れり(華盛頓電報)

◇北方妥協贊同

徐總統は三日閣員其他主なる海陸軍人各督軍を總統府に召集し日英米佛伊五國政府の南北妥協勸告を報告せり列席者は孰れも之に贊同し實行方法は中央政府の方針に服從するに一致せり(北京電報)

◇公使團勸告效果

五國公使の勸告は南北に打擊を與へ妥協進行せんと總統府側は觀測し居れり(北京特電)

◇軍政府和平打電

軍政府は二日附徐總統に打電し上海に南北同數の全權代表者を派遣し誠意を披瀝し和平を圖る可し速かに返電を請ふ旨照會せり(東京特電)

◇副總統選擧問題

副總統選擧問題又復起り居るも這は倪嗣冲氏と安福派一部議員の推薦にて反對派議員中には既に上海に赴きたる者さへあれば無論問題にならざる事明瞭なり(北京特電)

◇西園寺侯出發期

西園寺侯は十日頃興津より上京月末横濱解纜の船にて出發一月末馬耳塞着の豫定にて外務秘書官松岡洋右氏同行す可し(東京特電)

◇預金歩合公定 銀行家の決議

東京各銀行預金の爭奪は愈熾烈を極め市中第一流銀行は六分五厘見當の利率を附し預金の爭奪を試みつゝあるより銀行家は會議を開き預金公定歩合を五厘上げの六分と爲すに決し尙違反者に對する制裁規定に就き協議する所ありたり(東京特電)

◇東拓社債條件

東拓が今回發行するに內定せる社債五百萬圓の條件は六分六厘利附發行價格九十八圓二箇年据置後五箇年償還なりと(東京特電)

◇日露協會懇親會

日露協會にては日露人の懇親を圖る爲め二日午後三時上野精養軒にて露國クルペンスキー氏及び日露會員別席の上目賀田男爵の乾杯あり主客歡を盡し同七時散會せり(東京特電)

◇田所海軍中將

中將田所廣海氏は五日朝高麗丸にて釜山上陸直ちに鎭海に向へり(釜山特電)

◎松村海軍中將 新任

旅順要港部司令官海軍中將松村龍雄氏は五日朝著釜小憩の上東萊溫泉に向ひ同夜行にて朝鮮經由旅順に直行の筈なり(釜山特電)

◎和平會議奈何 支那政局今後の歸趨

南京和平會議の開かるべきは既に早くより世に傳へられ居たることにして南北妥協の氣運漸く濃厚の度を加へ來れりと樂觀され居たるも又々近來其の形勢漸く險惡を告ぐるに至りぬ即ち張作霖倪嗣冲段祺瑞等擡頭し來りて軍閥の復活運動を始むるに至れるの觀あり又議會にては國會の一部たる上海民友社(元の國民黨の殘黨)等が

▲妥協反對運動 を爲さんとしつゝあり、然れども軍政府各政務總裁は勿論南方の一般有力者は和平會議を開き無條件にて南北兩派より十名宛位の代表者を出して先づ妥協如何を議し民國元年以來與に政治革新の實を擧げ居らざるを今日茲に於て一擧に行ふことを議するに至るべし

第一、軍政と民政の區別如何
第二、財政の問題
第三、中央と地方との關係如何
第四、幣制、度量衡、租稅制

等支那全體に亘る問題に就きて協議するに至るべし而して此の問題たるや南方にては既に又北方にても好む所たり然れども茲に南方の民友社の一部これに反對するありて所謂南方の一部的運動をして此の際

▲徒らに誇大視 して此際和平會議を開くことを面目に關すると爲し錢能訓を彈劾するの案を出すに至れり茲に於てか北京に於ける支那有力者は此の形勢を憂ひ妥協案破壞の議を停止すべく其の徹回に盡力せんとするものあり然れども其の前途は未だ測り知るべからず又彼の徐樹錚の我國に來れるに就きても支那にては盛んに新聞政策を用ひ、再び亦借款、同盟等の事にても圖るにはあらざるやとロイテル等を使用して世界中に吹聽せんとするの策に出で、現にロンドンタイムス等の如きは、半ば之を信じて『日本は公正なる態度を執ると云ひ乍ら斯る陰密の策に出づるは諒解に苦しむ所なり』との意を傳ふるあり、事茲に至るも日本としては又列國としても支那の平和の爲め否

▲列國利害の爲 この支那の態度に對して默過し置くべからざるの問題たり況んや和平主義の爲めに心膽を碎けるの徐世昌をして益苦境に至らしめんとしつゝあるの狀は日本は勿論列國としても同情の至りに堪へざるものあり斯くては終に支那に對しては或は國際問題となるに至るべきやも圖り知るべからずと觀測せらる(東京支局)

◎製茶貿易樂觀

輸出製茶は休戰條約成立以來我が最大仕向け地たる米國市場の相場は軟調を呈し商行亦少しく緩慢となれるも然も人氣底固き商狀を示しつゝありと傳へらるゝが其前途に就ては毫も悲觀を須ひざる可しと觀測せらる尙ほ馬だ少からず殘存する茶の持荷に就ては直接には本邦綠茶の需要とは關係無く又其品質も粗惡なるを以て寧ろ餘り問題視するに足らず一方米國にては來る一月一日より國內ビールの製造を禁止し而して同七月中まで其需要をも制限すべしとの計畫もあれば若しこれが實施せらるゝに於ては茶珈琲等の需要更にますゝ增大を來す可く又所かることは無しとするも今後爲替及び運賃の低落によりて製茶市價の緩和を來すと共に買氣を刺戟するに足る可く且つ又假令今後は從來の輸出數量を維持すると能はざるとするも其輸出價格は急激に低落するが如き事情も之無きを以て兎に角製茶貿易は盛況を持續するならんかと(東京)

◎仁川期米下押

五日本場の仁川期米は連日暴騰の反動として內地各取引所幾分軟調を呈せし入報あり中限寄り附三十圓六十錢高値三十圓六十六錢止め三十圓六十錢にて之れを前日本場の高値に比すれば六十五丁方下値なりき又先限は寄り附三十圓十錢高値三十一錢止め十七錢と前日本場より何れも三四十安を示せるも大勢持合にて何ほ下値りの狀にあるものゝ如し

◎鮮鐵客月成績

十一月の滿鐵朝鮮線の營業成績に付同局の調査を聞くに左の如しと

營業哩程	一、一〇二哩一
乘車人員	七八〇、四二八人
小手荷物斤數	二、五八一、一九四斤
貨物噸數	一八九、四六五噸
客車收入	六九九、〇四二圓
貨車收入	六六四、二三七圓
運輸收入	一、三六三、二七九圓
一日一哩平均收入	四一圓九三

前年同月に比すれば貨物噸數に於て七千五百噸を減じたる外何れも增加を示し居れり

◎農業技術官會同 =第四日=

道農業技術官會同第四日は五日午前九時半より總督府第二會議室に於て小原農商工部長官統裁の下に會同に日程に入り午前午後共協議事項の協定あり同四時散會せり

◎京城手形交換高

京城手形交換所に於ける客月中小切手、手形、爲替證書其他證票の交換狀況を聞くに合計枚數に於て六萬二千二百四十三枚金額二千六百十萬八千二百餘圓を算し之を前月に比較する時は交換枚數に於て二千七百餘枚金額に於て三十三萬四千三百餘圓の增加を示せり而して更に之を前年同期に對比する時は交換枚數に於て一萬八千九百餘枚此の金額に於て一千三百四十萬二千餘圓の何れも增進にして當月中一日平均に見れば交換枚數二千五百九十三枚此の金額百八萬七千八百餘圓を示し更に一枚平均に見れば其の交換金額四百十九圓四十五錢の割合を示せりと

◎下旬鮮鐵收入

十一月下旬に於ける朝鮮鐵道の收入は客車收入二十三萬餘圓、貨車收入二十三萬一千圓合計四十六萬餘圓にして前年同期に比し九萬八千圓の增加を示し一日一哩收入は四十圓九十三錢を示したり

◎朝鮮物産增資

仁川の朝鮮物産會社は資本金二十萬圓を五十萬圓に增加するの件此程總督府より許可されたり

◎林前駐支公使 消息

前駐支公使林權助男は五日午後八時四十分北京出發朝鮮經由歸東の旨其筋に入電ありたり

◎領事團招待

久水外事課長夫妻は來る九日午後七時より在京各國領事團約二十名を朝鮮ホテルに招待年末の晩餐會を開く由

◎農科大學出身者懇親會

駒場札幌兩農科大學出身者並に各高等農林學校の出身者八十餘名は四日夜朝鮮ホテルに會合懇親會を開きたるが今後適當の機會に一年一回位宛の會合を開く事に決定せり尙ほ會名は一同同學にして而して朝鮮開發と云ふ同志の下に來鮮奮闘しつゝあるを以て同學會と命名することゝなりたりと

◎葉煙草藏置場地域追加

葉煙草の藏置場及び乾燥場の設置を許可すべき地域追加の件は六日官報を以て告示さるべし

人事消息

▲梅野實氏(三菱製鐵所長) 滯京中の所四日夜東上
▲井上愛氏(鮮銀營業課長) 下の關より三日夜歸京

東京便り

十二月一日發 一寄書家

◇當地昨日來遽に寒威を加へ、今朝は手洗鉢に薄氷すら認め候。何時候當然の陽氣とは存じながら何となく戰慄を覺ね候。

◇戰慄と云へば、獨り寒威と薄氷とのみに限らず、社會人心の傾向に對し、深き憂慮を催すは、先憂後樂の士は近時の時代精神を誘導して、危險を未然に防止する事肝要に候。

◇露國の崩壞以來、過激思想は世界の各地に蔓延し、殊に歐米各國に在りては、之が影響頗る甚大を致し候。現に革命を遂げたる獨逸國すら過激思想の防止に全力を注ぎ、リープクネヒト一派の極端派は之れが爲め排斥を受けたる始末に有之候

◇佛英兩國の亦用意周到切實を極め候。兩國の政治家は民意政治を主張し、社會の改革を力說するも國家の權力と社會の秩序を保持するに就ては全精力を傾倒し、以て國民の康福を增進するに健鬪しつゝある有樣に候。眞の民意政治とは組織ありて統一ある社會民人が國家の政治に對して共同分擔の責任を完うする努力を意味するものに候

◇我日本は歐米と懸絶し、彼の地の惡風潮を感受するに於て幾多の不便あるは、實に天與の至幸と謂はずんばあらず候。然れども外來の新思潮が國民精神を刺激し、時代思想を惑亂せるもの絶無と言ふべからず、現に相當教育ある階級にして、其の思想を動搖せしめたるもの一二にして足らず、寒心すべき傾向と謂はずんばあらず候

◇臨時教育會議が民心の統一に關する建議案を採納し、小委員を設けて之れが審議を託せる、寔に卓絶匡救の一大福音たり。然も吾人は一教育會議に一任して安心すべき秋にあらず民心の歸嚮統一は實に有識階級全體の共同責任に候

◇吾人は之と同時に陸海軍隊の統率に關し、一層細心の注意を當該責任者に望まざる能はず候。惟ふに帝國軍隊は世界無比の規律を有し、其の軍人精神の旺盛にして義勇服從の熾烈なる、世界に其の比類を見ず、寔に模範軍隊の稱ある所以に候

◇毎年四月の交を以て開催せらる、全國聯隊區司令官會議が、今回臨時に之れが召集を見、來る七日より陸軍省に於て開議を見る筈に候。記者は未だ同會議の目的を知らず勿論局外者の言議すべき限りにあらずと雖も、聰明なる田中陸相は近時の時代思潮に關し必ずや吾人と所感を同うし、管下團長に訓令して適切妥當の新方策を講ぜん事疑ひを容れず候。若し當局の考慮茲に及ばずとせば、記者は本文を以て當局の發醒を促す警鐘たらしめん事を申して憚らざるものに候

茶前酒後

◆世界の政治家にして、新聞政策に最も巧妙を得たるは、ロイド、ジョーヂ君と、ウイルソン君也。ロイド、ヂョヂ君の內閣の成功は、有力なる數多新聞の背景にあり。ウイルソン君の意見は、米國民の意見なりと迄、公認せらるゝに至りたるは、ウイルソン君の取りたる新聞政策の功にあり。

◆米國參戰の當時は、多少國民の反抗を期待されたるが、ウイルソン君は各政策の實施に當り、先づ新聞記者に諮り、豫め各新聞に掲載して、一般國民に周知せしむるの方法を採り、而して之が大なる成功を納め得たり。

◆支那大總統徐世昌君が、去る二十八日の戰勝祝賀の聯合閱兵式に際し、大々的に各地の新聞記者を招待せり。而して優待懇切、徐氏の新聞政策堂に入れりと稱するこの南方に於ける民黨機關紙たる、民國日報、中華新報の記者を北上せしめ得ざりしは兎も角、新聞報、時事新報の記者を網羅し得ざりしは、未だ成功と云ふを得ざるの觀あり。然れども徐君が天下の新聞記者を率ゐて、督軍團と相對するの朝あらば、其は洵に無上の好相撲と云はざるべからず。

◆南北妥協漸く進捗せんとするとき、孫文代表徐謙君は、督軍撤廢を力說す。斯の如きは、徒らに督軍連の感情を害するに過ぎざるべく、妥協の進行上にも、亦故障たるは、疑ひを容れざる處也。

◆由來督軍は、支那に於ける實力勢の所有者にして、決して一介の武辨に非ず。支那武人にして、陸相たらんよりも、督軍の地位を渴仰する、決して故なしとせざる也。何となれば金力萬能の支那にありて、一擧に富有たらんとする者は、督軍に如かず。督軍勤續五年に至れば、一千萬元の富豪たる、又た敢て難からざれば也。今遽に此の職を奪はんとせば、彼等が是如たらざるは勿論、却つて自己擁護の爲めに、更に彼等の蹶起を見るべし、之れ即ち角を撓めんとして、牛を殺すの類也。

謝近火御見舞 (順序不同)
龍山元町二(電話六六五番) 正木岩二郎
龍山元町二丁目 遠藤織平
龍山元町二(電話六二三番) 眞木商店
菓子商 龍山元町二丁目 蒲原時計店
龍山元町二ノ三 出征 朝山英夫(留守宅)
龍山元町二丁目 石黒清治
龍山元町二丁目 楠田質店
龍山元町二(電話二九番) 大島酒造場
祝一郎

謝近火御見舞
丸三組商會
阿部寅之助
京城府元町二 電話五六一番

到る處の文房具店にあり

賜宮內省御買上 賜各宮殿下御買上
東京市日本橋區通油町 文房具問屋學習院御用 酒井長次郎商店
ラーヂ萬年筆 (進呈目錄)
男子用壹圓五拾錢より金十圓迄
婦人用金貳圓卅錢より金拾圓迄

建築技術士招聘
中學程度の學校を卒業したるものにして多少實地に經驗を有する者初給月六十圓を給す希望者は至急履歷書を
朝鮮黃海道兼二浦 建築土木請負業小川組 組長 小川大吉

法人登記公告
一 麻田金融組合登記事項中目的ヲ左ノ通變更ス
一、組合員ニ對シ其經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト
二、組合員ノ爲ニ預リ金ヲ爲スコト
三、組合員ノ爲ニ產業上必要ナル材料ノ貸付若ハ共同購入ヲ爲シ又ハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ生產物ヲ販賣スルコト
四、組合員ノ爲ニ其ノ生產物ヲ倉庫ニ保管シ又ハ之ニ對シ倉荷證券ヲ發行スルコト
五、組合員ニ非サル者ニシテ組合ニ加入ノ豫約ヲ爲シタル者ノ爲ニ出資一口ノ金額ニ達スル迄及組合員ト同一ノ家ニ在ル者公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預リ金ヲ爲スコト
六、朝鮮殖產銀行ノ業務ヲ代理シ又ハ其ノ業務ノ媒介ヲナスコト
七、地方金融ノ調節ニ關シ朝鮮總督ノ命令アリタル業務ヲ營ムコト
右大正七年拾貳月參日登記
京城地方法院漣川出張所

軍隊拂下大安賣
茶褐外套、毛布、冬茶褐小倉服、冬羅紗服、ジャケツ、軍帽、靴下、アイボーシャツ袴下、雨合羽、右特別大安賣仕候間多少に不拘御用命願上候
龍山元町二丁目 川本衣服店 電話五六、振替口座二五六

鞄……は……高木旅行用具店 京城本町壹丁目 電話二五四番
□東京製トランク各種 □專賣柳織鞄一手販賣 □毛布及膝掛各種 □國旗及附屬品一切 □魔法瓶及中瓶取替

活動寫眞器械
幻燈器械
大阪市西區新町通壹丁目 高木商店

ヒコーキ印粉劑消火器
素破!と言ふ時は"これだッ"
京城 熊平支店

▲上谷君に告ぐ 居所知らせ

本朝夜半近火の節は早々御馳付被下難有御禮申上候混雜の際とて御尊名伺い洩も可有之取不敢以紙上御謝禮仕候
龍山元町二丁目 精米業 執行猪太郎

模造品續出御注意乞
オキシパサー
本器は科學界の泰斗ヤイケルファラデー氏の發見唱導に係りダイヤマグネチズムの原理に基く大氣中の酸素利用に依る治療器にして使用後直に…
定價金參拾九圓
特約店 京城本町二ノ七一 酒本高明商店
東京市麴町區有樂町一ノ三 大日本オキシパサー商會

謝近火御見舞
本朝長谷川町倉庫近火の際は早速御馳付消防に御盡力を辱ふし以御陰藥品其他在庫品に何等損害無く大事に到らざりしは全く御厚意の賜と奉深謝候一々拜趨御厚禮可申筈に候も混雜の際御尊名伺洩も難計不取敢以紙上御禮申上候
大正七年十二月五日 京城旭町一丁目・電八番八八〇番 井上藥品部

大正七年七月一日改正現行

◎御婚儀勅許あらむ

李王世子梨本宮方子女王兩殿下御婚儀は今五日勅許あらせらるべしと漏れ承る（東京電報）

□梨本宮家より御答電

王世子殿下方子女王殿下との御緣談整ひたるに付四日李王同妃兩殿下より梨本宮同妃兩殿下へ御挨拶の電報を發せられしが五日梨本宮同妃兩殿下より御懇篤なる御答電ありたり

◎校長殉職す
元町小學校燒失

五日午前零時三十分龍山元町高等尋常小學校職員室（應接間とも云ふ）より發火し木造二階建二棟（二百八十二坪餘）その他附屬建物を烏有に歸し同時に校長鈴木志津衞氏が壯烈なる最期を遂げし椿事あり

◇職に殉じた鈴木元町校長◇

▼發火の原因 は目下取調中にて判明せざるも同校にては毎夜六時より九時まで夜學を開き居り出火の前夜も平日の如く夜學を開きたるが鈴木校長は授業終了後も獨り居殘り翌日の教案その他の調べ物をなし十一時頃歸宅したるところ間もなく此椿事が持ち上がりたるものにして急報に接せるや龍山憲兵分隊より矢野分隊長以下憲兵多數現場に駈付け常備消防隊を始め義消防隊、步兵聯隊の一部も亦出動して共々消防に努めたり是より先當夜校内には小使岡本鐵治郎の外訓導木川丸一氏宿泊し居たるが時ならぬ

▼警鐘の音に 眠を醒ませば此は抑も如何に火元は意外にも我學校なりと腰を拔かさん許りに打驚き屋外に飛び出したる時には最う職員室より御眞影奉安室にかけて一面の火の海と化し居たり木川訓導は突嗟の場合にも好くその職責を忘れず直に猛火を冒して御眞影室に飛込み御眞影を取出したるが是と殆ど相前後して駈付けたる鈴木校長は木川訓導が御眞影を奉遷したる事を知らず一圖に

▼御眞影の事 のみ思ひ詰め人々の制止をも肯かず渦卷く猛火の下を潛つて飛鳥の如く奉安室の方へ飛込みたり一方火は益々熾に燃移りたるが何しろ附近に無類の大建築とて炎々たる火焔は天を焦し阿鼻叫喚の聲と共に一種悽慘なる光景を呈したり火は夫より更に講堂及び是と壁一重の裁縫室に移らんとせるが消防組必死の活動に依り辛くも是を食ひ止め得たるは不幸中の幸ひと云ふべく斯くて全く鎭火せるは午前二時なりき

▽校長燒死
御眞影を奉遷せんと……悲痛なる納骨

猛火の中に飛込みたる鈴木校長は其後如何にせしか混雜に紛れて判明せざりしが夜明けて後（七時頃の由）悲壯にも御眞影室の前にて燒死し居れるを發見益々大騷ぎとなれるが學校側にては屍體を發見するや直ちにその周圍に幔幕を張り繞らし矢野分隊長の檢視を受けたり悲報に接するや夫人を初め遺族の人々は取る物も取敢ず現場に駈付け檢視の終了を俟つて納骨に從事したるが光景頗る悲痛を極め誰一人として淚を呑まざるものなかりき斯くて納骨を終るや瑞龍寺住職の讀經あり遺骸はそれより直ちに職員生徒その他弔問客に護られて元町一丁目なる私宅に入れられたるが時に午前十一時三十分なりき

◎死ぬまで『皇室を崇高せよ』

この教訓を遺して殉職せる鈴木校長の性格に就て同校次席訓導は語る『惜しい事を致しました校長は實に眞面目で元氣でさうして常に自分は職に倒れると云つて居られたソレが今

▲事實と なつて現はれました其の死が實に沈着で御殿…

▽壯烈鬼神も哭かん
偲ばるゝ鈴木校長の最期

御眞影室に向つて正座した儘黑焦げ形容の言葉がない恐らく鬼神も哭くであらう』と鈴木校長の屍體發見後直ちに檢視を遂げたる矢野分隊長は語つて曰く『屍體は最う全部が黑焦になつて居たが大腿骨や脊骨の狀態から考へると校長は

▼御眞影室 の前でヒッタリ正坐し兩手を斯う前に突いて居たものと思はれる多分校長が飛込んだ時奉安室は最う一面の火の海だつたので『最う駄目だ』と觀念し同時に絕大なる責任を感じてその儘其處に捨ち坐り御眞影を拜した儘（實際は既に奉安してあつたが）

▼從容死に 就いたものであらう是は校長平素の言行から考へても明かで實に壯烈とも悲壯とも

影室に向つて手を突き敬意を拂つて殉死して居られた予は日頃から職員は無論生徒に皇室を崇高せよとの教訓を死に際して迄現はされた事と思ひます其死は實に悲壯で私はそれを思ふと淚が禁じません』尚ほ現場に駈付た柴崎京城中學校長は『鈴木君の

▲性格と して殉死せずには居られなかつたら僕はそれを思ふと斷腸の感がある』と淚の眼を拭いて語つた

▽僕は職に倒れる

燒跡を呆然と眺めて居た慈濟會理事富士洞然師は語る『鈴木校長は皇室を重んじ乃木將軍に心服して居られた樣でした然うして僕は職に仆れて後已むと常に言つて居られた兎に角立派な御精神のお方がなくして殘念です』

◇棺前の遺族と火事跡◇

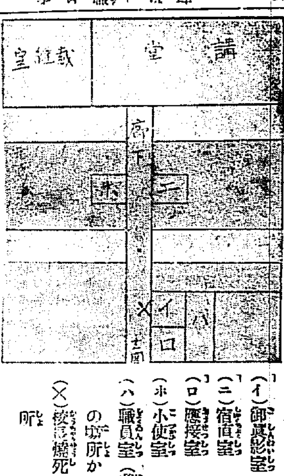
◇宅として本望でせうと
未亡人淚に咽んで語る

◇子女は六人

職に殉じた鈴木校長納骨の柩は午前十一時過ぎ靜々と元町一丁目なる校長宅に運ばれ同五十分より未亡人同母堂及び遺子親戚一同學校職員知人等列席の上讀經は始められた此沈んだ光景には誰一人として泣かざるものもなく殊に女教師達は感極まつて淚の聲を擧げて居た未亡人は淚に咽びつゝ斷れ〱に語る

▽『學校を燒い たる事は皆さんに對して何とも申譯のない事です、然し宅が職に殉じて燒死して呉れた事は宅としても本望でしようし又皆さんも諒として下さるでしよう、御眞影が安全に取り出された事に就ては宅も彼の世で定めて安心した事でしよう、宅は家庭には非常に嚴格で常に子供達を集めて皇室を重んじ乃木將軍を見習へと教へて居ました、そうして旗日には必ず子供達を朝早く庭に連れ出して皇室の方に向つて禮拜をさせて居りました、紙上を通じて何うか皆さんに學校を燒いた事を詫びてやつて下さい』と又もせき來る淚に咽ばれた因に

▽長男要一さん は目下東洋專門學校に在學中で次男の忠雄さんは京城中學校へ長女ハルコさんは京城高等女學校へ次女榮子さん三男の新三さんとは尋常科へ何れも通學中であるが向後の方針に就てはまだ定められてないとの事である因に葬儀は八日龍山瑞龍寺に於て佛式にて營まるゝ由



（イ）御眞影室
（ニ）宿直室
（ロ）應接室
（ホ）小使室
（ハ）職員室（發火の場所か）
（×）校長燒死の場所

◇鈴木校長の燒死した場所◇

▽今夜は何だか氣掛だ
◆蟲が知らせたか？

鈴木校長宅と隣り合せの同校矢野女教員は淚の顏を袖で覆ひながら語る『妾は昨夜他の先生達と校長さんにつれられて新龍山の學校に戰事講話を聞いて十一時頃に校長さんと共に歸りました校長さんは道々今夜は何だか氣掛りになつて堪まらない其上氣分が惡いと被仰つて居りました校長はお宅の門前迄來ると突然僕は

▼學校が 氣に掛るから行くと仰つて其儘學校へ行かれましたが少時して歸つて見ねてごうしたが何事もなく氣にかゝつて堪らないから暫時運動して來るといつて再び練兵場へ行かれましたそれからお歸りになつてお寢みになつて居るこ火事との事でした校長さんは跣足で飛び出し學校に行かれた儘でしたソウして此の悲壯な御最期を遂げられました今から考へて見ると校長さんはあゝした

▼精神的 のお方でしたから御最期が判然とは知れない迄も所謂虫が知らせたと云ふ樣な感じがあつたので何だか氣に掛ると仰つて居たのでしやう』

▽乃木さんのお話をするこ泣くのよ

お父さんにつれられて燒跡に行つて居た同校尋常一年生上原道子さんに校長さんの事を聞いて見るこ『校長さんは乃木さんのお話をするこ屹度泣くよ』と淚を含んで答へて居た

◎御眞影府廳へ奉安

木川訓導の活動に依り無事なるを得たる御眞影は一時京城府龍山出張所に移し參らせたるが金谷府尹之を奉戴し京城府廳に奉置したり

▽向後の授業
取敢ず他校に收容して

同校燒失により向後の授業に就き同校職員は直に京城府學務課及び學校組合と共に協議の結果取敢ず尋常四年以下は燒け殘りたる同校講堂及び過般新設されたる教室に於て授業を開始する事とし尋常五六年は元町四丁目普通學校に高等科は新龍山普通學校か新龍山小學校に何れも收容授業を開始する事とせり

▽原因暖爐か
損害八萬圓 ●●●●

發火の原因は別項の通り目下取調中なるが暖爐說有力にして所轄龍山憲兵分隊に於ても略斯くと認め居れるもの、如し損害額は建物備品を合して八萬圓を下らざる見込みなるも建物には三萬六千圓の保險を附し居れりと

◎匈共和國の女大使
同權主義の記者

匈牙利共和國は男女同權主義の婦人記者ロシカ、シムメルと言へるを瑞西駐劄大使に任じたりとの報あり（倫敦電報）

◎朝新解停

筆禍にかゝれる朝鮮新聞は四日解停せられたり

◎繭商殺し公判
地方法院大法廷にて
四個月間如何決著するかと待ち構へた人々は未明から詰めかけて…

繭商殺し事件として世人の耳目を聚めたる强盜傷人殺人文書僞造行使犯人陸軍騎兵少尉都野川義雄（三一）及び同人の情婦菊坂忠信事今津りように對する贓物收受、贓物運搬、犯人隱避被告事件は本日午前九時半から京城地方法院大法廷に於て開かれた。事件發生以來四箇月に亘る間該事件が如何に決著するかと待ち構へて居た人々は殆んど未明より同院正門前に詰めかけ降り敷いた雪を踏んで佇んで居た、そして七時半には傍聽券百枚全部の附與を終つて入廷を許されたが取殘された數百の人々は恨めしさうに門前に佇んだまゝ十時頃まで容易に退散しさうにもなかつた

▽忠信は 髮をグル〱卷にし

斯くて九時前には滿廷立錐の餘地もない程に傍聽人を以て埋められた。九時半を報ずる開廷の鈴と共に田中裁判長、堀、鏡兩陪席判事、山澤立會檢事、園部書記、田中、臼井兩辯護士及び該事件に關與せる司法官等着席すれば被告都野川義雄は羽二重の紋服に仙臺平の袴を着し雪白の羽織紐を結び銘仙細縞の袷の襟には二號と記せる被告番號を附け深編笠に面部を被ひ手錠に戒められ乍ら看守に引かれて被告席に著く續いて被告りようは頭髮はグル〱卷きにして艶やかなれど窶れし頰の邊りに鬢髮のほつれを見せ鼠色細縞縮緬の羽織に大島の袷を著し手巾を以て口元を拭きつゝ都野川と並んで被告席に著し都野川の編笠を脫ぎ手錠を解かるれば五分刈の頭髮に濃く剃りたる跡の青く顏色稍憔悴せるを見る。裁判長公判開廷の旨を宣すれば山澤檢事立つて被告兩名の罪名を陳べて裁判長の審問を求め裁判長より型の如く被告兩名の住所姓名職業族籍等の訊問ありて先づ都野川の罪狀の審問に入る

裁判長は都野川の鄕里の事情及び京城に移住せし迄の經緯京城に於る家族の生活狀態から借財關係から被告忠信との交情關係に及ぶと從順に而も惡びれずに審問に答へ更に慘殺當時の狀況及び心理狀態に立到れば

◇審問を受けてゐる都野川（立つてゐる）坐つてゐるのは忠信（五日地方法院大法廷）

手紙を遣つたりなどして居るが其方はりようの眞意を信じて居つたのであるか』被告『半信半疑で居りました』裁判長『りようとの關係が主たる原因にはならぬにしても、負債はあるし、落籍の約束はしたしと云ふ處から遂に其方は他人を欺いて金を奪ひ一時の急を救はうとの考へを起した譯だが相違無いか』被告『はい』

▽りようの妊娠を信じて居たか

裁判長『左樣に借財があるに拘らず其方は本年春頃から頻りに遊興して居るではないか』被告『遊興と申しましても金策をする爲めや事業上の都合でしたこともあり又時には氣がムシャクシャするのでつい遊んだこともあります』裁判長『本年三月頃から此處に居る被告今津りようと馴染を重ねて居る樣ぢやが夫れは遊びではないか』被告『ハイ』裁判長『被告今津りようの身受をする金を其方が出してやると云ふ約束をしたさうだが夫れは遊びではないか』被告『別段約束したと云ふことはありません』裁判長『其方は正妻にして居る菊との仲が面白くない處から、りようと夫婦約束をして居る樣に見ゆるが何うか』被告『別段そんなことは御座いません』裁判長『りようが其方の胤を宿したと云ふことを聞いて非常に喜んで

▽短銃を見られたので 夢中でやりました

裁判長『其方は峠に到つた時二人の持つて居る金を脅迫して奪はうと云ふ考は無論あつたらうな』被告『其時迄も迷つて居ました』裁判長『何も迷ふ譯が無いぢや無いか』被告『私は何うしてよいか殆ど自分では決し兼ねまして途中でロ實を拵へて逃げて歸らうとも思つたのですが夫も爲し得ずフラ〱と二人に隨つて峠まで來たのです』裁判長『三人休憩した時鳥飼等は握り飯を出して食ひ其方にも一つ進上すると云つて呉れたさうだが事實か』被告『いゝえ私は魔法瓶のお湯を頂きました許りです』裁判長『始興驛に汽車が著いたのを三人の者が立つて眺めた時其方は愈兩名を殺害して金を取ると云ふ決心をし先づ吉川を五連發拳銃で狙撃し驚いて鳥飼が振返る途端同人を目蒐けて三發を放ち兩名其場に仆れるや二万六千圓を强奪して逃げたのぢやな』被告『夫は少し違ふ樣に思ひます』裁判長『何う違ふか』被告『私は彼の時此場所は脅迫に持つて來いだと思ひまして懷中の短銃を取出さうとすると鳥飼さんがフト私の方を見られましたので、もう見られたつと思つて却つて此方が慌てた樣な都合で、直に一發打ツ放ちました是で荒膽を取られて御座りましたが鳥飼さんは飛退つてステッキを振り翳して打ち掛られました、時に吉川さんが私の方に向かれたので先づ吉川さんに一發放ちました其後は夢中でありました』（以下次刊）

◎航海中の惡性感冒
百餘名病む アラビヤ丸船客

一日午前八時半大阪商船亞拉比亞丸は船客二百六十三名貨物八千八百三十八噸を積載し米國より敦賀に入港したり同船は航海中船客間に流行性感冒患者發生し忽ち船内に傳染し百餘名の患者を出し中五名は肺炎を併發して死亡したり目下猶七十一名の疑似患者を止め居れりと（敦賀）

◎應擧と新畫（書畫入札）

本社來青閣に於て七八の兩日催する入札會には既報の作品以外圓山派の祖應擧の『眠狗』あり識者の筆致襟を正さしむ其他現代諸家の作品として米山、知松齋、眉仙、柏亭、晃湖、岳陵、文竹、道彥、雅東、笑堂、華石、玉葉、金嶺、順齋、三、來助、竹陀、竹城等の諸家の作品も陳列入札に附せらるべし

◎交換手募集

京城郵便局に於て電話交換手採用の必要あり志願のものは本月二十日頃までに申出づべし但給料は見習生として當成期三箇月間は月收約十一圓にて愈々本交換手となれば月額約十五圓の收入あるべし年齡滿十三年以上小學校卒業のものなれば採用の資格ありと

◎屋根の制限
家屋と建築法

兵營除設置以來諸多の工事各所に起りしが客年八月以來道路に沿へる場所に… 建築又は工作物を建設せんとする… ざるこ一面市街の美觀上に於ける… 地よりして今回主要道路に面し… [illegible]

十二月七日（土） 舊十一月五日 戊子 … [illegible]

大晴 … [illegible]

★酷寒季西伯利亞に於ける寒威の程度に就て
氷點下五十何度に及ぶ事もあるが一日の中に三寒四温があつて甘く寒威を調節する（上）

左に掲ぐるは第三師團長野軍醫部長の談である（於チタ早川殿談）

軍を露國に送らんとするに當り直ちに吾人の頭腦に強く閃き感ぜしめたのは寒氣に就てゞあつた嘗世の英傑奈翁をして露都に大敗を招かしめし寒氣に就てゞあつた我第三師團が重要命令を受けたる當時迄は吾々は奈何に努力しても西伯利方面の衛生状況は只だ其大體の外知る事を得なかつた氣象氣候に就てすら探り知る事が出來なかつた今實地の調査をなして往事を回顧すれば彼の時代に吾人の耳にし又は書類などに散見した所のものは多くは只だ極端丈のものか或は單に旅行者などが

皮相の觀察を業々しく物語つた

もの許りで詳細に且深く考究されたものでなかつた事を知り得た又當時吾人の頭腦も單簡であつた例へば嘗て西伯利は寒威強く氣溫零下五十度以下を示すと聞くと成程夫れも事實であるが吾人は元より一日中に溫差があり三寒四溫があり各月に依りて大差あることを考ふるに遑がなく全冬期を通じて只然るを思はしめた又一口に西伯利と云へば吾人は其の何れの地點たるを

考ふる事なく直樣

全西伯利亞が同一の狀態に在る事を思ふのであつた現今我第三師團が分屯して居るのはチタを中心として西貝加爾湖附近東はネルチンスク方面に亘る西西伯利亞の一小部分に過ぎないけれども此の區域內に於ても各所の氣溫が同樣でない今度苦心して集めた西伯利各地の測候所の氣象統計表によりて明かにする事が出來る（附言す此大部の表を集むるには陸軍省も非常に苦心したものであるが今度我が軍醫部の手に入つて初めて詳細に知ることが出來たのは幸福である）其の他鄕黨の父兄のみならず出征軍人等の恐怖して居るのは

ブルガ風と紅露

抔と云ふ吾人の未だ見聞したことのない氣象の變化であるが是も研究して見ると矢張其の最も極端の點のみを聞かされて居るに過ぎない依て此等調査事項と我第三師團の衛生狀況を發表して地方官民各位就中鄕黨の父兄に慰安を捧げたいのである今西伯利各地の酷寒季に於ける氣溫を見るに（大正三年十月より大正四年三月迄の平均最高最低氣溫及び絶對最低氣溫を見るこ左の如くである

各地と寒氣の割合

チタは十月からモウ酷寒期に入つて零下十五度八こいふ日もあつたが同月中普通の十七度こいふ溫かい日もあつた、夫から極寒は一月であつて一月の最低氣溫零下四十二度七最高零下十二度である而して三月になるこモウ寒氣も餘程薄らいで溫かい日は普通攝氏八度四位に上るこいふから華氏の四十六七度に及ぶこともあるが尤も三月中の最低氣溫は零下十八度五に及んだ日もあるから寒暑の差の著しいこミが判る

最も寒い所は

ネルチンスク、スレーテンスク、ウエルフジンスク、イルクツク等で酷寒期の最も寒い一月中の最低及び最高氣溫を示すこ左の如くである（何れも零下である）

地名	最高	最低
ネルチンスク	零下二二、一	五三、五
スレテンスク	二三、四	五一、五
ウエルフジンスク	九、八	四七、二
イルクツク	八、九	五〇、二

而して此寒冷が人體に及ぼす感作を調査して見るのに左の通りである但し被服は普通の冬服で防寒被服を著て居なくしての實驗たるを承知して貰ひたい

（一）零下十五、六度以上　無風の際は餘り寒氣を感じない

（二）零下二十度以下　呼氣悉く鬚髯に凝結し手足一般の凍感を覺ゆる

（三）零下二十七、八度以下　眉睫鼻毛悉く凝結し眼の開閉及び呼吸に異樣の感あるのみか舌廻りの自由を失ひ言語の困難を覺ゆるに至る

（四）零下三十五、六度以下　前項の外寒威彌々こして身體の全部を襲ひ來り其、感恰も頭上より強く壓縮せらる樣であるのみか且絶えず腦內に無意識に惡寒戰慄を催し睡眠は勿論の事寸時も靜止する事出來難い

風次第で寒さの感じ方が違ふ

それから風向風速の身體に感ずる寒氣の度に大差があることは云ふ迄もない已に零下五度に降らない場合でも風速五米突を越ゆる時は最早殆んご堪へ難い程になるのである左に風速こ身體に感ずる度を表にて示せば左の如くである

無風（零下十五度）輕風（零下十二度）和風（零下十度）疾風（零下八度）烈風（零下四度）

風速が一米突ある時は氣溫一度二分低下したると同樣の寒氣を覺ゆるこ云ふのである故に無風の日こ風のあるの日は被服に多大の注意を拂はなければならない去る九月我金城師團は愈出動こ云ふ事になつた所が我駐屯する附近は極寒になるこ幸ひ風がない樣になる冱寒一日の風力に就き氣象表の示す所によるこ最強度の平均が左の通りである

地名	四年	五年
チタ	○、六	一、二
チルチンスク	一、五	一、六
ストレチンスク	一、七	二、〇
ウエルチンスク	○、七	○、四
イルクツク	三、三	二、〇

之をブーホールの風力度階級に比する時は第一度軟（弱）風の割に入るものであるブーホールは風勢を左の六度に區別して居る（即ち無風を除きて）

（一度）軟（弱）風（一秒の風速○、五—四米突）風あるを感ず

（二度）和風（一秒風速四乃至七米突）樹葉を動かす

（三度）疾風（一秒風速七乃至十一米突）樹枝を動かす

（四度）强風（一秒風速十一乃至十七米突）大枝こ小幹こを動かす

（五度）烈（暴）風（一秒風速十七乃至廿八米突）樹幹を動かす

（六度）颶風（一秒風速二十八米突以上）建築物を破壞す

○満洲の朝鮮人村（三）
高句麗の舊地に逆戻りて農耕に從へる鮮人一萬以上あり
此鮮人村に於ける種々の通弊

前述の樣に支那人は非常に容易に朝鮮人には土地を貸て呉れると云ふから支那人こ朝鮮人間の狀態は極めて良好である樣に思ふこ是は又大間違ひの底抜でなる、今日でもまだ朝鮮で支那人に對しては兎角朝鮮人がテイクサラミー（大國人）こ稱して自分より一等上位に居る人の如く尊敬を表してゐるか此の邊では一面昔の歷史に慰安を得て多少の誇りを持つてゐるさは云へ

支那人は鮮人を

見る事矢張り屬國の者の如く上から眺め下してゐるこ同時に鮮人等も矢張大國人こ稱して決して異こして居ない其の理由は多年の因習にも依るであらうが一面彼等鮮人の生活程度が支那人に比して非常に劣つてるからであるこ思ふ。是れを一番手近な衣食住に見てもそれである。先づ著る方から見ても支那人はピカ〳〵光るものを身に著けてるが

鮮人は例の如く

白いものをイヤ年が年中の著通しだから白いのは何時の間にか灰色となり黒光りに光る樣になつたのを著て平氣で濟ましてる、それも例の百姓の質朴さから破れてるをはうこもせぬから益々ひごいではないか、又食物の狀態はこ云ふこ、支那人は朝鮮人から取り立てた小作米で白い御飯を戴いてるにも拘らず作つた朝鮮人は其白いのは高價だから

賣つて粟こか稗

こかの安價なものを買つて是を常食こして滿足してる所謂紺屋の白袴式であるから是も支那人から侮られる一ッの材料こなつてる第三番に住居を云ふこ是れが又甚だしくて御話にならない程度である即ち一番賑やかな三源堡に於ける萬餘の富を擁してるものは兎も角相當な家居に住んでは居るが山間に住んで開墾に從事してゐる者は山の洞や崖の邊に

穴藏を掘り上には

葉でスポ小屋を藏うて雨露を凌いでる有樣で到底支那人の家屋に比べては比較にも何にもなつたものではない。以上三ッの物だけでも支那人から馬鹿にされるには十分である。けれごも彼等鮮人は此處は松花江の上流で土地は肥沃ではあり昔の歷史はあり又水害洪水の恐れはない燃料には不自由せぬこころから

盛に移住する者が

增加して來るのである其增加して來る內には矢張り不良な分子が交つて來る其の不良な分子こ云ふのは別に心配する程のものでなく政治的意味の不良分子でなくつて即ち今迄百姓をした經驗のない者

寄生虫同樣の遊民

で兵隊の飯を食つたこか教壇に立つて教師をやつて見たこか云ふ高等遊民で移住はしたが百姓はしたくないこ云うて遊んで居ては食ふ事が出來ぬが

何んこか彼とか

文句を付て遊んで食つて行かうこいふ連中である兵隊上りの者は日く馬賊が襲來したら百姓が困るであらうから春こ秋この農閑季には自分が教官になつてやるこいひ

教員上りの者は

日く今日世界の大勢は如何である學問のない者は駄目であるであるから先生になるから金持共は金を出して學校を造れそして一般の子弟を入學させろさうしたら自分は

給料を貰ふので

食ふに困らぬ樣になるのみならず先生〳〵こ立てられて、案外都合がよくなるこまでは云はないだらうがマア一寸此の商法だ、そこで今では兵隊上がりで

警備機關らしい

ものも出來、學校の眞似事見た樣なものもやつてるこ云ふから驚くではないか、此の警備機關や教育機關を賛成したならば實に面白い結果が得られはせぬかこ思ふ。

○慶北の繩叺（上）
慶尚北道の施設及び成績
慶尚北道技手　本谷愛次郎

慶尚北道に於ける輸移出米豆包裝用こして消費すべき繩叺は年々叺百萬枚價額約二十萬圓繩百萬把價額約五萬圓其他漁業用雜穀用こして消費する數量亦僅少ならず而して是れが供給は從來殆んご內地より仰ぐの狀態に在り依て本道は之が自作自給の途を講ずべく農家の副業こして繩叺の製造を獎勵することゝし大正三年度に於ては臨時恩賜授產事業こして一千三十圓の費用を投じ爾後年々定額の補助金を支出して繩叺製造傳習會を繩叺の需要地に開催し一箇所約十日間製造に關する技術を傳習せり而して修了生に對しては各一臺の製莚機を配與し且つ組合を組織せしめ以て自給的に斯業の改良發達を圖らしめつゝあり是れが爲め地方に於ける篤農家又は地主組合員或は國有地小作人組合員等にして自ら資を投じて製莚機を購入する者續出し大正六年度末に於ける調査に依れば八千二百六十一臺の多きに達し一箇年の製造高實に五十餘萬枚（穀物用以外のものを含む）を產出するに至れり今左に各事業の概況及び其成績を略述せむ

（一）臨時恩賜金授產費補助額（三千卅圓）

三年	一、〇三〇	五年	六〇〇
四年	六〇〇	六年	八四〇

（二）繩叺傳習會設置　傳習會の開催は大正三年度に於ては金泉、慶山、迎日、永川の四郡に各一箇所宛大正四年度に於ては金泉、慶山、永川、高靈、漆谷の五郡に各一箇所宛大正五年度に於ては慶山、永川、達城の三郡に各一箇所宛大正六年度に於ては金泉、慶山、漆谷、達城、星州の五郡に各一箇所宛開催し大正三年度に於ては一百名同四年度に二百五十八名同五年度百八十名六年度二百五十名の修了生を出せり

（三）繩叺製造　前已に述べし如く繩叺の自給に就ては大正三年以來極力獎勵に努め併して組合の監督を爲し之が指導發達を圖りつゝあるも輸移出穀類の逐次增加するこ米豆檢査實施に伴ない繩叺の形質を吟味するに至りしを以て米豆包裝用繩叺は益々不足を訴ふるの狀況を呈せり依て本道は大正五年十二月繩叺生產獎勵に關し各郡に通牒を發して極力之が獎勵に努めしめ又一面慶尚北道輸移出穀物改良組合に於ても大正四年度及び大正五年度に合計二千圓の獎勵費を支出し製莚機を買入れ之を繩叺の主要生產地へ貸付し斯業の發達を努せる爲め左の如き成績を得たり

大正五年度末に於ける叺三十一萬九千四百五十六枚に對し大正六年度に於ては一躍五十萬九千五百十一枚の增加を見るに至れり、繩は殆んご地方生產を以て自給するの好況を呈し大正五年度末に於て其產額九十七萬五千四百九十三貫なりしもの大正六年度末に於て百七十五萬九千七百九十七貫に達し七十八萬四千三百四貫の激增を示せり

◎開原（三）
老禿生

◇◇豐富なる木材◇◇

近來開原で大いに囑目されてるのは木材業である、即ち海龍城方面の森林伐採事業こ相呼應して興るべき木材業である、鴨綠江上流地方吉林の奥地一帶及び海龍城方面は有名なる森林地帶である、それが鴨綠江及び松花江の流域に沿ふ地方は運輸の利便より近いて價格の關係上漸次著手され前者は既に其の時代は經過したこ迄或一部の人には評されてる位である、後者は吉長線の開通こ鴨江材の現狀こに刺戟されて多數人士の注目を惹き今や日支合辦で彼の豐材公司などが創立され大規模の計畫が著々進んで來た

◇◇千古不鉞の大森林◇◇

此の兩者の間に介在して眞に千古の大森林不鉞の地區こ云ふものは此の海龍城附近より濛江一帶に亘る一大森林地帶である、それが今日まで何人も著手せずに居た理由こ云ふものは別に取り立て、說明するまでもない只交通運輸の便が開けない爲に是を伐採して開原に搬出するに要する費用……山元では零こしても……は優に鴨江材を開原に入れる費用の約二倍を要する勘定こなるからであつた、それが海開鐵道に依つて開拓される……開始されれば直に枕木其の他工事用材こか何こか云ふて種々なる利用法が講ぜられる……譯である

◇◇土地二重の利用法◇◇

こ同時に伐採した土地は耕地こしても利用される事になる、此の順序で開原は一ッの木材市場こなつて來るであらうこ思ふ。而して數量は豫測の限りではないが或人の話によるこ特產物こ並び稱せらる、迄に發展するだらうこ是れは略推察が付く事こ思ふ其上土地二重の利用に依つて益々特產物は增加して來るのみならず其機關を利用して開原は更に一新方面を開拓する事になりはせぬかこ思ふ

◇◇輸出入の一大要地◇◇

前述の如く開原は極めて往昔の歷史に乏しいのである要は特產物市場こして今日の殷盛を來したのであるから其發達振歩たるや今尚ほ非常に偏してゐる即ち一大輸出地ではあるが輸入地こしては殆んご見るに足るべきものがない、それは往昔よりの商習慣取引の歷史に依つて輸入方面に於ては今尚ほ鐵嶺の敵ではない、輸入方面の大取引、大問屋なるものは容易に現狀を以てしては鐵嶺の地盤を侵す事は不可能であるが右海開鐵道の開通は此の古い歷史古い習慣を打破するに尤も開原に有利なる裁判を下すものこ見ねばならぬこ共に開原人士も之には多大の注意を拂つてるのであるから開通の曉に於ける開原人士の奮鬪振りは眞に目覺しいものが期待されるであらう斯うなるこ開原の前途將來は實に多事多望こ云はねばならぬ又而ありてこそ海開鐵道開通の本旨にも副ふものこ云ふ事が出來るのである

○安東縣で燐寸
◆日本燐寸軸木製造所◆

安東縣六道溝に於て數千坪の敷地を相し工場建築工事中なりし日本燐寸株式會社安東製軸所は既に諸般の準備完成したるを以て去る三十日試運轉を行ひたるが其成績佳良なりしを以て二日より愈操業を開始したり（安東）

○氷上渡跋

咸鏡南道三水郡遮堡附近の鴨綠江は先月初旬より結氷を開始し同十七日に至り中位里及び高巨里の兩渡船場は渡船不可能こなり鮮人支那地この交通一時杜絶せるが茲數日を經ば人馬の氷上通過自由なるべしこ（咸興）

○鹽　季節に入りて
▼▼▼賣行捗々しからず▲▲▲

本年以來戎克船の入港するもの殊に多く從つて例年に見ざる原鹽の輸入あり需用方面に於ても需用期前に於て盛んなる買註文殷盛を極めたりしも最近に至りては需用期の既に經過せるこ市價の著しく騰貴を見たるこに依り賣行き捗々しからず輸入數量の如き昨今の狀態は例年よりも却つて減少せるやの感あり本秋に於ける原鹽輸送の狀況は主なる需用地たる金泉及び元山等を除けば僅に二百噸位に過ぎず沿岸に發送せるもの亦百噸內外を算せり相場は昨今原鹽二圓五錢再製鹽三圓五錢乃至十錢處を唱へつゝあるが目先頗る強硬にして明春の需用期節に入れば更に騰貴を見るべく豫想せられつゝあり目下仁川の在荷數量は約八百萬斤餘こ見れば大差なかるべく例年こ略同數に在るが如し因に十一月下旬沿海各地に發送せる數量は原鹽約六百噸再製鹽凡そ四百噸にして其主なる地方を擧ぐれば左の如し

原鹽二百噸金泉百五十噸元山七十噸侯館五十噸大邱四十噸井邑其他再製鹽百四十噸大邱七十五噸元山三十噸侯館二十五噸慶山其他（仁川）

○廉い炭
但外へは賣らぬ
◆指定販賣商人の條件◆

慶南道にては昨今狂騰せる炭價を調節せんが爲め智異山大學演習林の拂下げを乞ひ木炭を製造して釜山、馬山、鎭海、統營、固城、三千浦、晉州、泗川、鮹津等に廉賣すべき計畫ありこは再三報道せる通りなるが慶尚南道にては過般來取急ぎ木炭製造に着手せる結果愈右地方に移送すべき第一回木炭の製造を終りたれば此程各地へ向け其割當て額を通知せしが現品の到着は十二月三四日ならんこ而して馬山府には十萬貫、鎭海面には六萬貫十二月一日より來年一月末迄三箇月間廉賣することゝなり其指定商人を選定せるが馬山は酢谷虎市氏鎭海は松尾重信氏にして此指定商の條件は口錢を一割こし其以上決りに利益を貪らざることゝ指定價額以外には販賣せざることゝ絶對に他に輸移出せざることゝ等なりこ而して木炭の値段を聞くに白炭一俵六貫目入河東渡し一圓十二錢黑炭同一圓二錢なれば運賃諸掛りを合算するも白炭一圓五十錢黑炭一圓四十錢以上にはならざるべしこ而して昨今馬山地方の炭價は內地炭一俵六貫目入二圓三十錢朝鮮炭一俵四圓五十錢を唱へ居れば殆んご半額なるを以て一般の歡迎を受け官民共に其一日も早く到着せんここを待ち居れりこ云ふ（馬山）

○迷信から五歲の幼兒を慘殺す
◇賣卜者の言を信じて◇

平安南道成川郡靈泉面朗陽里十二統十戶朴德煥（三）が自宅に於て昨きて附近に住む孤兒朴東英（五）こを殺害したる事件あり其顛末を聞くに被害者朴東英の父は去る大正三年十二月頃死亡し其屍體を加害者朴德煥の住宅裏手に埋沒したるが加害者は去る三月頃より胃腸病に罹り種々施療するも恢復せず殆ご困じ果て居れる際賣卜者に見て貰ひたる所住宅裏に埋沒せる前記被害者父の墓を他に埋葬すれば病氣は忽ち恢復すべしこ云ひたるを信じ之を被害者の親族に交涉したるこころ頑こして應ぜず爲に其遺兒なる朴東英を怨み折もあらば其怨みを晴らさんこ企て居たるこころ加害者は當日恰も被害者が自宅門前に遊び居れるを奇貨こし好きものを遣らんこ言葉を巧にして遂に自宅に引入れ被害者の隙を窺ひ後方より鋭利なる朝鮮鎌を以て右頸部を掻き切りて即死せしめたるより附近の者の訴へにより成川憲兵分隊員出張して逮捕したりこ（平壤）

○犬の爲めに自動車轉覆す
◇幸ひ乘客に死傷なし◇

平南岐陽、江西間運轉の自動車が去月二十七日午後五時頃乘客を滿載して岐陽を發し同五時三十分頃江西郡江西面塩蘇里を通過中一頭の犬現はれ自動車の前方を横切らんこせしより運轉手は之を避けんこせしに自動車は道路際に斜行し田圃の中に墜落せんこしたるを以て急に駐車したるこころ却つて其機みにて反動により右方に轉倒し偶に右後車及び前面幌の骨を破損したるが幸ひ乘客は無事なりしこいふ（平壤）

[illegible]自然軍事部其他を合する[illegible]時は優に四萬を唱ふ實に北鮮有數の大都會となり加之客年歩[illegible]市街地[illegible]務部令に依て[illegible]を爲さしむるに[illegible]止わしを以て[illegible]に於ては[illegible]能はず殊に咸興市街[illegible]鮮部落にして草屋多く爲めに火災頻發し公安上憂慮すべき點砂からず[illegible]事に満したる由なれば之が實施後に於ける咸興市街は實に面目を一新するものあるべし（咸興）

[illegible]

氣象臺報　前日最低溫度　京城 華氏[illegible] 攝氏[illegible]　仁川 二十六、八　零下二、九

○ミツワ雪の雫
肌膚を柔軟にし色艶を麗しくする芳香健膚藥

本劑は皮脂を除き、硬化せる皮膚を柔軟滑澤ならしめ、肌理を細かにし、皮膚の血行を進めて其の色を艶澤ならしめ、健全なる皮膚の新生を促すが故に、之を常用すれば、皮膚を強健清潔になし其の眞美を發揮せしめ皮膚乾燥、龜裂、皸裂、凍傷、瘡痍、白癬、火傷等に奏効し又白粉下に用ふれば、白粉ののりのびを良くし、生彩ある化粧を施すに好適のものなり。

定價 金四十錢　內地以外は關稅運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

○ミツワ花の雫
オー・ド・フラール
芳香馥郁たる家庭用肌着香水

從來の家庭用香水には徒らに強烈なる香を放ち手巾衣服等に振掛くれば、汚點を殘すもの多きに反し、ミツワ花の雫は人を魅するが如き床しき溫雅の芳香を有し、毫も汚點を殘す憂なく肌着、手巾、寢具の敷布等に振掛け、洗面盥浴槽等に用ふれば、清涼の感を得ること、本品に優るものなく、各家庭に常備すべき優良なる家庭用肌着香水なり。

定價 金四拾五錢 大壜七拾錢　內地以外は關稅運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

○ミツワ月の雫
ヘーヤ・ローション
毛髮の營養料頭髮用衛生香水

●毛髮の衛生に適する●ミツワ月の雫は優良なる品質を具備し、毛髮を洗滌せる後此のミツワ月の雫を用ふれば、爽快の感を得、毛髮の發育を助け、毫も之を傷め害ふことなく、色澤を艶美ならしめ、雲脂の過度を防ぎ、榮養を良くするに特効ある美髮料なり、故に毛髮の衛生に留意し、美髮を欲するものには、實に理想的の營養料頭髮用香水なり。

定價 金五拾錢 大壜金八拾錢　內地以外は關稅運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

○ミツワ椿油
毛髮の衛生に適する新鮮純良の椿油

●ミツワ椿油は冷壓法で強力なる水壓機を用ひ、少しも熱を加へずに搾出した新鮮純良な椿油で、普通の椿油こ異り毫も苦渋を含まず、平常此ミツワ椿油を用ひてゐるこ『理想的の滲透性不乾性油』こ云つて毛髮に滲込む力が強いから、毛髮こ密接して榮養を行ふこ云つて、毛髮の黒い色素が段々に減り、赤毛や白毛に早く成り易い憂ひを除き、梳つたり臭氣を發する等のこことも無く、毛髮の發育を助け且つ色黒く艶を麗しくし、裂毛、折毛などの憂ひは決してないのである

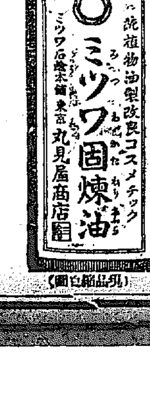
定價 小壜…金貳拾錢 中壜…金四拾錢 大壜八合入 金三圓貳拾錢　內地以外は關稅運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

○ミツワ固煉油
コスメチック
本邦人に適する理想的改良コスメチック兼用香油

本品は最良無比のミツワ椿油を基礎こし、溫雅なる芳香料を加へたるものにして、在來のコスメチック或は鬢附油に代用すれば、毫も毛髮を汚さず毛髮の發育を助け榮養を良くし其色澤を漆黑艶麗ならしむべき實用的美髮料なり。

定價 金貳拾錢　內地以外は關稅運賃を加ふ



（現品縮寫圖）

○ミツワブリリアンチン
●ミツワ椿油に馥郁たる香水を配合せる模範的美髮料

本品はミツワ椿油を基礎こし之に品質優等なる香料溫雅の香水を配合せるものにして振盪して用ふれば毛髮諸症の禍原を除き、更に毛髮の發毛を良くし其の色澤を漆黑艶美ならしめ、自ら爽快の感を與ふる毛髮の異美の發揮に最要なる芳香馥郁こして模範的美髮料なり

定價 金參拾錢 大壜五拾錢　內地以外は關稅運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

商況

東京株式特電
五日前場 寄付 止め
東株 同新 同船 商船 新 郵船 同新 東汽 鐘紡 同新 ... [illegible]

東京現株中値
東株 同新 朝鮮銀行 同新 南滿鐵道 第一新株 鐘紡二新株 南滿製糖 朝鮮製糖 滿洲製粉 京城電氣 朝鮮瓦斯 郵船 同新 商船 同新 鐘紡 東拓 ... [illegible]

東京期米特電
四日後場 高値 三十七圓三十五錢 安値 三十六圓九十一錢 止め 三十六圓九十一錢

大阪三品特電
四日前場 十二月限 ...

大阪期米特電
四日前場 ... 二八八〇〇

兵庫期米特電
四日前場 先限寄付 三十七圓二十四錢

下關期米特電
五日前場 先限寄付 三十五圓六十錢

雜報

●板硝子益好況 子は休戰條約調印も何等の影響なく內地の需要は勿論海外方面に於ける需要も亦容易に減少せざる模樣にて昨今一般貿易品の輸出不振なるにも拘らず板硝子類の貿商談は依然好況を呈しつゝあり戰後と雖も白耳義國の硝子工業が容易に恢復せられざる狀態にあれば本邦の對外輸出は依然好調を持續すべく左れば旭硝子の如きは今…

●今尙賣止め解除 …品切れ狀態…

●新蒟蒻粉突飛 減收氣構へにて三百十圓見當さ蒟蒻粉より三百十圓の高値に堪れたる新蒟蒻粉は…

●過剩に陷れる 抑々供給 …

●鐵類益不勢 …

●洋臘値上 …

●香料は不引立 …

●三錢五厘方引上 …

下關相場
▲朝鮮米は依然強硬 …

●投物弗々現る …

京城正米市場
…

●當の一圓安の見 …

各地商況
○大邱米況 四日 …

仁川正米
…

仁川期米

▲五日前場 (下放後下混る) …

▲二十六錢安に寄付 …

釜山物市場
四日 …

市場雜觀
…

仁川米豆取引所 五日の二月限
…

北濱たより
▲大株と大新 …

青物小賣値
日に日に惡化の傾きあり …
ほうれんそう 六〇 しんきく 一五〇 ...

三巴仲買店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目
(ナ) 仲買店 仁川米豆取引所仲買人
(サ) 齋藤榮之助 仁川米豆取引所仲買人
(大) 仲買店 仁川米豆取引所仲買人
(三) 仲買店 仁川米豆取引所仲買人
大五仲買店 仁川米豆取引所仲買人
倉重 仁川

演藝案内

壽館 本町一丁目 ◎英國各地大好評の 英國軒ハレー一行 ▲十二月六日より花々敷開演

有樂館 早川演藝部直營 活動寫眞常設館 ▲十二月五日より公開 米國ユニヴァーサル會社 ▲大滑稽「札の雨」全二巻 ▲大活劇 急行列車の救助 ▲人情劇 思はぬ縁 全五巻 △新喜劇「片われ月」二場

黄金館 電話(晝間)二六六 (夜間)二六二七 ◎舊史劇 木曾の黒猫 全六巻 第七 大秘密 新派悲劇 つゆ草 全四巻

浪花館 京城明治町 電話二六〇 浪花節競技大會

大正館 櫻井町 電話八七二 ◎大滑稽チャプリンとデブ ◎戰爭映畫 世界の平和 全八巻

文樂座 本町五丁目 電話一三二八 曾呂利新左衛門 全五巻

慢性りん病 石炭酸より誘導したる殺菌力を有し… 大阪 淺田藥局
模範牛乳 東亞牧場 京城蓬萊町四丁目
ニウソ 石鹸洗粉

共同汽船出帆
日本郵船出帆
互光商會廣告
寫眞 京日寫眞製版部

落附のあつて上品な レート白粉 初春のお衣裳に調和のよい

化粧百態 俊惠 「お顔直し」 化粧崩れはせぬながらも、髮のほつれを掻き上げて、顔直しにこレート紙白粉。まあごうして美くしさを増す附きの上品さ。懐中鏡を見て自分ながらに、恍惚こ

お化粧の仕方

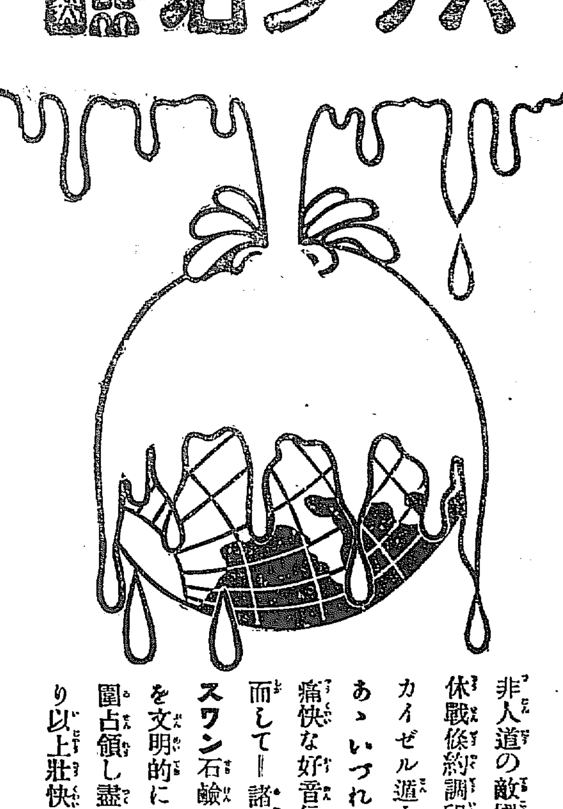
◇お化粧法は先づ第一にお化粧料たる白粉を撰擇せねばなりません。何故かといふと、只白く附くばかりの白粉では、決して、眞の化粧美は得られません。これは即ち

◇品がないからで、お化粧に品がなければ、眞の化粧美はありません。レート白粉は只に附り伸びのよいばかりでなく、實に仕上げの上品な事は天下一品で、白さに

◇自然の色艶がある上にお化粧崩れがしたり、色がクスムだり致しませんから初春のお衣裳に自然の白さがシックリ調和ひ一日中冴ねて美しいお化粧が保つて居ります。

レート化粧料本舗 東京 平尾賛平

スワン石鹸



非人道の敵國燼滅!!!
休戰條約調印!!!
カイゼル遁亡!!!
あゝいづれも溜飲の下る痛快な好音信!
而して! 諸君日常愛用のスワン石鹸は遂に全世界を文明的に而も確實に包圍占領し盡しぬ是れはより以上壯快な事實!

製造元・日本リーバー・ブラザース株式會社

汽車 京釜線(南行) 同(北行) 湖南線 京義線 京元線 京仁線 [illegible]

第五版

京城日報

[illegible]

京城日報 反動來に備へよ(中)

四

經濟競爭を激發すべきは、吾人も豫期する所なるが、是れ漠然たる想像に出づるにあらずして、必然しかあらざるべからざる情勢と理由とを具す。第一に交戰國は數年に亘れる戰亂に因り、戰前に確保し把持したる海外市場を恢復せんがために、平和克復と共に全力を擧げて商戰場裡に殺到すべきは無論のことなり。之に對して我邦の如き戰時中に多大の努力を致して商權の擴張を圖りたるものが、舊主人が歸來せりとて、左様ならばと、折角獲得したる市場を明け渡すべきにあらず、是に於て乎是れ等の新舊勢力間に市場爭奪の競爭戰が必然演出せられざるを得ず。第二に平和克復と共に、各交戰國に於て軍務に服せる多數の國民が復員して、從前の平和的事業に從ふべきは當然にして、各國政府も亦此の場合に於て失業者なからしめんことを十分に考慮し、目下それ〲の措置を執りつゝあるがために、平和後の事業界が、相當の活氣を呈すべきは疑ひを容れず。殊に戰時中に於て各國とも工業組織を出來得るだけ擴大したるを以て、此の大規模の製造能力が一齊に生産事業に向けらるゝ場合には、こゝに巨額の供給夥多を起すこと、是亦固より疑ふべきの餘地なし。是に於て各國共に此の餘分の貨物に對し市場に其販路を求めざるべからず。即ち此の状態の下にも國際的經濟競爭を演出すべきこと勿論なり。第三に戰時に於ける工業は、いふまでもなく一種特別のものなれば平和克復後は各國とも其組織を變更し、之を平時生産事業に移すべきこと前述の通りなるも、中には其まゝ將來に維持し、之を發展せしめ行くの必要を感ずるものあるべく、是等の事業に就いても亦國際的競爭を惹起せざるを得ざるの形勢に在り。凡そ是等の情態が相合して、市場の爭奪戰を演ずるに至れば、其の競爭は隨分激烈なるべきこと想像するに難からず。殊に東洋並に南洋、即ち目下我が獨占市場たる、比較的に戰亂の餘波を受け居らざる方面に於いて最も猛烈を來すべきは、吾人の豫め覺悟せざるべからざる所なりとす。此の競爭の起る時期は、即ち我が經濟界が反動の惡浪に漂ふべきの秋なることは、固よりいふまでもなき次第なるべし

五

然らば其の反動は何時に來るべきかといふに、平和克復の状態と、各國が執る所の政策如何に關係すること最も大なるを以て、何人と雖も其の制限を確言するを得べからず。但し理論上よりいへば、最も自由に競爭の行はれ得べきものに於いて、最も早く反動來を見るべき筈にして、例へば海運界の如き當然之に屬すべき素質を有するものといはざるべからず。即ち戰爭のために異常に擴張したる船舶を有するの國(米國の如き)にして其の出征軍引揚を終了すると共に世界の各航路に向つて、競爭を試むるの態度に出でんか、我が海運業は眞ツ先に打撃を被らざるを得ざるべし。從つて造船に關する諸工場にして其の基礎の薄弱なるものは、轡を並べて倒壞するの悲境に陷らざるを保すべからず。而も其の時期が半年後に在るか、一年後に在るか、今日に於て豫斷を許さゞるも、察する所各交戰國が復員其他全く平時の状態に復歸し、更に活躍の羽翼を整へたるの後にあらざるべからず。而して其の諸物貨に至りては、其の競爭状態に入る之よりも多くの時日を經過せざるを得ざるべし。何となれば各交戰國に在りては、戰時中國民一般に成るべく消費を抑制し、出來得る限り消極の生活を爲したるが故に、平和克復して四海寧樂の時となれば、こゝに多くの需用を生じ、生産界に於ては若干月子の間は、國内の供給に應ずべき必要あるを以てなり。然しながら前にもいへる通り、戰後の生産界は[…]戰と共に其模樣を殊にし、凡て大規模たるべきを以て、吾人の[…]外に事の進行を見るやも知るべからず。

▲正誤 前號本論中『戰亂の餘波』は『戰亂の餘波』の誤

噫殉職校長

京城府龍山元町小學校長鈴木志津雄氏が、昨五日同校出火に際し、御眞影を安全の場處に遷さんと欲し、挺て猛火を踏み、遂に安置所の前に跪座して燒死を遂げたることは、別項所報の如し。かゝる出來事は内地に在りては間々聞く所なるも、朝鮮にては始めての事なり。かゝる場合に於る殉職者の心理は、大和民族以外には多く諒解せられざるが故に、新附の民は或は奇異の目を張りて之を觀るなるべし。成程御眞影は尊べしと雖も要するに一紙片に過ぎず、之がために身命を抛つに就ては、皆理打算的の心を以て之を見れば、隨分不思議ならずとせず。而も大和民族の皇室に對する衷情は、全く打算以外に存することを教訓するは、此の場合に於て最も適切なりと信ず。實際日本國民が皇室に對し奉り、至敬至愛至忠至厚の念を捧げ、生命を鴻毛の輕きに比しいることは、此の一例を見るも極めて明かにして、畏れ多きことながら御眞影に對してすら此の如くなれば、況して國家の大事に臨み、直ぐ責任を感ずるの場合は、即ち之れを想像するに難からず。是即ち日本帝國が世界に比類なき國體を維持し、列國競爭の裡に雄飛する所以にして、東洋多數の邦國と全く殊なりたる進路を取り、旭日新興の邦と畏敬せらるゝの原由も亦此に存すると、新附者の特に注意して看取すべきことなりとす。古語に『死の難きにあらず、死に處すること實に難し』といへり。鈴木氏の壯烈無比の殉職は、實際に於いて非常の教訓を垂れたり。其の非命に斃れたるは洵に悲しむべしと雖も、朝鮮教育上に洵く且つ深く影響を與ふるは、生前の事業に勝ること萬々なり。氏亦以て瞑すべきなり。

貝加爾 湖畔より(上)

從軍記者 金谷眞

後貝加爾州の首都チタからイルクツク縣の首都イルクツク市までは日本里程で二百六十八里程、東京驛から三田尻までの距離にある。此の間は山岳河川の大陸的なるもの多く途中の大驛ウエルフチウヂンスク市を過ぐればやがてミソワヤ驛附近より貝加爾湖の眺めとなる。貝加爾湖に就てはヒラ〲今日の壯とは自分等より二日前に湖畔を通つた大庭第三師團長も感慨であるさうな、戸水博士にも是非一句やつて貰ひたいものである。

◎十一月五日午後チタを立つ、イルクツク行きの列車は何時來るか判らぬことゝに午過ぎから寒い停車場に立ち盡くす、夜の八時過ぎ列車が來た、しかし貨車の代用客車のみの列車で一二等は明日でなければ駄目だといふ、兎ある貨車中に日本の兵隊さんと共に飛び乘る、汽車は兎も角もチタを出た、それから物の二十分も經つて第一チタ驛に着く、自分等の列車は行つたり戾つたりする間に果ては貨物に暗い職込線に打ち込まれた上汽關車からは逃げ出された、誰も露語に不案内、遂に自分の通譯でやう〱元通り連結して貰つた、聞いて見れば驛員は善意であつたが兵隊さんは惡意にとつて袋探さにして居た

◎這麼言語不通の間違ひは沿道の到る處にあるらしい、汽車はすつたもんだの大騷ぎの上やう〱夜中此處を出た、兵士は何れも名古屋市の出身で奉天の自分の留守宅に泊つた人々であつた、京城を通過の際熱誠な歡迎をうけた悅しさ、兒島中將が京城で挨拶して下さつたのが無上に光榮だつたと喜んでゐた、聞けば兒島閣下は曾て此の兵士等の旅團長であつて京城で逢つた時は悅しかつたと沁々語つた、窓外は[…]何れも寒々と凍りついてゐる、暗い貨車の一隅から『東海日出で、浪[…]つところ……國の日本われ等の祖國……』と青年團歌が起つた、第三師團の兵士は何れも此の歌を高唱して進んで居る『自分等が朝鮮を通る時小學校生徒からこの歌を聞かされて涙が溢れました』と二人の兵士は語つた、後貝加爾の夜を青年團歌の歌聲で自分は無上にうれしかつた

◎十一月六日朝起きて見るとモグソン驛に着いて居る、空は相變らず灰色の雲に蔽はれてチラ〱チラ〱雪が降る、昨日も一昨日も一昨々日もいつも〱同じ天氣、朝鮮あたりの美しい晴れた空に馴れては洵に不愉快な感じがする、沿道はヒロク河の凍結したものや白樺の林や、赤松や樅などが見られる、處々に廣い原野もあるが概して山が多いやうである、午後二時頃ヒローク驛に着く、驛の一隅に日の丸の旗が飜つて日本兵士が立つてゐるのは悅しかつた、此の時不圖『京城日報の方』と呼んで自分の傍に立つた一米人があつた、恐ろしく日本語の巧な人で浦鹽から貨物二十九貨車を積んでオムスクまで行き今歸るところだと云ふ、京城の丹羽さんにもお顏みして大に日本の基督教青年會にも働いて貰ひたいといふ、自分は浦鹽以來黑龍縣の山奥でも後貝加爾の寒村でも常にワイ、エム、シー、エーの活躍を見た

史と傳說(十六)(秋迦) 史上に現はれた怪談(四)

怪談は一國の興亡盛衰の際能く現はるゝのみならず、英雄豪傑の際にも能く現はれて居る、殊に其史上に於ける英雄や豪傑に對しては、其人物や手腕を神秘的にして、之を飾るに怪談を以てする傾向が多い、英雄豪傑が生まる、時に、大槪の場合は其の瑞兆を說いて居るが、之れは日本でも支那でも同じ事で、東洋史中の英雄豪傑は、能く瑞夢や何かの兆を以て生れて來て居る。之れは先づ普通に史家の解として茲には英雄豪傑を神秘的にすべく特別な怪談の例を示して見よう。新羅の英雄金庾信は、羅朝切つての英雄である、而して第一の功臣であるが、彼は母胎に居る事二十箇月にして生れた、時に紫雲屋を繞り紫氣堂に滿て數日も散ぜなかつたのみならず、其背には七星文あり、龍顏虎額目は曙の星の如く、聲は洪鐘の樣であつたと既に茲に神秘的の裝飾を施してある。庾信年を重ぬるに從ひ四方に志しあり、心身を練らんが爲めに單獨、中岳の岩窟の中に入つて神を祈念して居た、すると一人の老人が現はれて秘訣の一卷と、夫から此の山の上に龍光の射かあるから之を取つて騎乘せよ、俺は三十年後半月城の東門外で遇はうと云ふかと思ふと何處へか行つて仕舞つた、庾信は直に老人の言つた通り峰の上に行つて見ると、果して寶劍があつたが其の劍には[…]龍劍と刻してあつた、其から又岩窟の内に跪つて授かつた書籍を讀むと、六韜三略の中の太公兵法の秘訣であつた、之を讀むと一週日ならず心身忽ち融會して戰時と適に別の樣になつた、其處で書と劍を携へて山を下り、之れから山陰縣に馬を尋ねに出掛けた。以上は餘りに迷信とも思はぬけれど、之れから戰後に御念が入つて來る、同じ怪談でも朝鮮の異なつて居るのは之れ等が一例である。

現下の社會問題(三)

內務省囑託 留岡幸助氏講演

一例を擧げれば徵兵義務の觀念に於ても、時として上流階級の子弟中に、是に對して存外冷淡な者があると云はれて居る、上流の一部には自分等は巨富を擁するが故に或は地位高きが故に、何かに付けて自己に都合の好いことを爲すの特權があるもの、如く心得て居るかに見ゆることもある。さうして中流階級はと云へば實に其

▽地位の不安 は益々甚だしくなりつゝある。だから少しでも其經濟的壓迫を輕減し中流の人を困らせない樣にし、此上多くの貧民を作らぬ樣に努めるとは今日の狀態に鑑みて寧ろ極貧者の救助より尚一層緊要のことではないだらうか、又同時に上流階級に向ひ我儘な振舞をする者があつた場合には、是に對しても何等かの相當なる制肘の方法を考案しては何うかと思ふ。夫故今日の我國の社會問題と云へば中流階級を保護し又假令一時困厄の境涯に陷つても、再び容易に擡頭し得るの途を講じ經濟組織の不公平な點を除き子弟には十分の教育を施す丈の餘裕を有たせたならば從つて一般の

▽思想も健全 にし社會を健全ならしむることも出來ると思ふ。次に貧富の問題に關聯して是非考へなくてはならぬことは人口の增加、過剩の現象である。御承知の通り現今我國に於ては年々一千人に付十四人即ち全國で七十萬宛の人口が增加しつゝある。單利的に計算しても十年後には七百萬人即ち和蘭或は白耳義等の一箇國(約六百萬人)よりも多い人口が何處かに殖ゐる勘定になる、人口の增加と生産の增加との關係に就ては六ケ敷い議論もあるが、兎に角限りある土地に限り無く

▽人口が增加 しては其處に問題が起るのは當然で、結局人類は安全なる地方を探して過剩なる人間を其處へ移しさへすれば何もヤキモキすることもなく最も安全である。處が今日我國で年々增加する人口の幾分が他地方へ移住しつゝあるであらうか、夫は誠に僅少のもので大部分は悉く生れ故郷に屁太張著いて生計を立ようとして居る。尤も是には相應の理由もある。第一國際上の關係で無暗と他國へ這入つて行くことは許されぬ、亞米利加、濠洲などは日本の移民を歡迎しない。第二は斯かる外的事情でなく

▽日本の國民 が郷國を離れて大いに發展することを厭ふと云ふ困難の存することである。假へば今夏全國を騷がした米騷動で一番多く亂暴を働いたものは所謂特殊民であつた、殊に部落の改良と云ふことには私は二十年來關興して居る一人であるが、此特殊民と稱する我々の同胞は凄じい勢ひを以て人數が殖へつゝあるに拘らず部落の土地を離れるのを嫌がることは非常なもので、米騷動の暴行者を多く出したのも一は彼等が人口過剩に苦しみつゝある一證左ではあるまいかと思ふ位である

雜

◎雁鴨の狩獵法

[illegible]

本紙定價 [illegible]
廣告料金 [illegible]
京城太平通一丁目
發行所 合資會社京城日報社
發行兼編輯人 奥田直
印刷人 小川三之介
電話番號 [illegible]

阪上綱吉先生著 定價八十五錢 送料八錢 增補
朝鮮諸官廳受驗必讀 法律講義
本書は各種官廳の採用試驗に應せんとする人の爲めに、各法律を出の試驗問題を締こし、教授の實際を經こして簡明に叙述し既往に於て答案を作し得べきやう講義したるこは、本書發刊以後に於ける法律の筆記試驗問題が、皆本書に舉げられ居るにても知らるべし。之れ本書が其の姉妹書法律問答の口述試驗と好準備書たるべく相俟つて受驗者に必要缺くべからざる所以なり敢て月桂冠を得んこする人の座右に一本を薦む。
發賣元 京城本町二丁目 振替京城二五七三 大阪屋號書店

實業之日本
講和成立と我事業界の打擊
化學工業の打擊
海運業の打擊
紡績業の打擊
日本の要求すべき講和條件
特殊鋼工業の事業
新公使小幡酉吉氏
國際聯盟の價値を疑ふ
流行感冒にて斃る、人は概ね肺炎が死因也今や肺炎唯一の特効藥が醫學博士高橋順太郎氏に依りて創製せらる死は人を待たず速に本號の記事を見よ
忠の解釋
大戰終期の教訓
工業家の失敗
西伯利鑛山の競賣と露貨の利用法
戰後の日本人
ペールに冒後の危險
獨逸革命の眞因
今後の獨逸は如何になるか
定價改正 一冊二十錢 東京・實業之日本社

醬油値上廣告
諸材料暴騰に付本日より左記之通り値上仕候條不相變御用命被仰付度願上候
大樽壹挺に付 金壹圓値上
大正七年拾貳月六日
仁川醬油組合

日本一の 強くて温い オニタビ
東京市大傳馬町 寺田淳平商店

法人登記公告
[illegible]
京城地方法院楊平出張所

吸入瓦斯エンヂン 十馬力 附屬品付賣 下關市本町四丁目 高橋鐵工所

第十七期決算公告
自大正七年五月一日 至大正七年十月卅一日
貸借對照表

資産之部	
諸商品及貯藏品	一、五〇九、〇〇八・二九七
積送品	二〇一、九四二・八四〇
諸貸金	[illegible]
預ケ金	[illegible]
受取手形	二六五、一七一・一九〇
委託品	[illegible]
放出金	[illegible]
他店へ貸	二、七七九、九八五・九九〇
地所、建物、機械並ニ諸所有物	[illegible]
建設費	[illegible]
未達勘定	[illegible]
拂込未濟資本金	二五〇、〇〇〇・〇〇〇
金銀	三一、八二一・九一六
合計	五、七九五、三三〇・九一七

負債之部	
諸借入金	[illegible]
特別收入	[illegible]
運賃及步炭	[illegible]
他店ヨリ借	[illegible]
支拂手形	[illegible]
未仕切金	[illegible]
資本金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
諸積立金	[illegible]
支拂未濟配當金	[illegible]
職工賞與金	[illegible]
純益金	[illegible]
合計	五、七九五、三三〇・九一七

利益金處分	
當期總益金	二、五七九、三七七・二五六
前期繰越金	[illegible]
當期損金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
內	
積立金	四〇、〇〇〇・〇〇〇
所有物及器械消却積立金	二〇、〇〇〇・〇〇〇
重役及使用人賞與金	一七、〇〇〇・〇〇〇
重役及使用人特別賞與金	一三、〇〇〇・〇〇〇
職工賞與金	七、五〇〇・〇〇〇
使用人恩給基金	七、五〇〇・〇〇〇
職工恩給基金	五、〇〇〇・〇〇〇
配當金(普通一割五分特別一割)	[illegible]
後期繰越金	二七〇、四五八・六九五

右之通リニ候也
大正七年十月三十一日
土佐紙株式會社
取締役社長兼高知支店監督 中內久太郎
常務取締役兼營業部長 中內彌三郎
常務取締役 上田虎次
取締役兼旭支店長 國吉虎太郎
取締役兼警防支店監督 二階堂三郎左衛門
取締役 溝上與三郎
同 土居豐助
大阪支店長 中內松次
伊野支店長 森木恒之助
京城支店長 宇田龜吉
橫濱支店長 長野嘉吉
佐川支店長 矢野鶴吉
監理部長 宇田龜代滿
右監査候所相違無之候也
常任監査役 高根因平
監査役 井上作次郎
同 寶田通經
前記配當金ハ株式壹株ニ付金六圓貳拾五錢新株壹株ニ付金四圓拾六錢十二月一日ヨリ御渡可致候
本店所在地 高知縣吾川郡伊野町
支店所在地 高知縣土佐郡旭村 同縣高知市堺町 同縣高岡郡佐川町 大阪市西長堀北通三 山口縣玖珂郡和木村 京城府南大門通一 橫濱市蓬萊町二
旭支店 佐川支店 高知支店 大阪支店 警防支店 京城支店 橫濱支店

村木の精巧なる飾身具は あなたのお姿を今一層濃艶に……粹に又氣高く致します……
ユビワ、ブローチ、ピン、首掛鎖、短掛鎖、羽織紐、カウス釦、ムネ釦、金メタル、櫛、笄、帶止、簪、
精巧なる貴金屬製品の御買求め或は御誂なさるには本町二丁目の ムラキ に限ります電話四七〇番を御呼出なれば直ちに店員を相伺せます
京城 村木時計店 振替京城一九一

拂下公告
牡馬約百四十頭 牝馬約六十頭
右本月十一、十二、十三ノ三日間午前八時ヨリ釜山牧ニ於テ賣拂ス
希望者ハ當所ニ就キ承知スヘシ
釜山臨時軍馬檢疫所

株劵交付公告
來ル十二月十日ヨリ當銀行本店ニ於テ株式割當證又ハ第一回拂込金領收證(株劵領收ノ旨裏書ノ上御捺印ノコト)ト引換ニ株劵御交付可申上候猶同日以後ハ株式名義書換可致此段公告致候
大正七年十二月
京城府南大門通二丁目
株式會社 朝鮮殖產銀行

最新刊
滿蒙通覽 南滿洲公司調查編 特價七圓也 上卷出來 送料五四
時文研究 山宮允 上村務雨 [illegible]
萬人必携 [illegible]
八年度卓上備忘曆 日記兼用 [illegible]
冬の夜ばなし 坪內 [illegible]
けけくらべ 樋口 [illegible]
趣味の文から [illegible]
東西英雄一夕話 三宅雪嶺著 定價一圓送料八錢
神話の戸籍調べ [illegible]
西洋見物の旅行 [illegible]
舶來品新著 送料不要 [illegible]
こらんぷ [illegible]
大正八年小學生日記 [illegible]
京城本町一丁目 大阪屋號 振替京城二五七三

寫眞 京日寫眞製版部 [illegible]

[illegible]
▲鑛業權移轉 [illegible]
▲演藝 六日より[…]浪花節、[…]

◇我條件と米國

華盛頓外交社會にて噂さる、所に據れば講和會議に於る日本の基礎條件は（一）海洋の自由問題に就ては日英同盟上英國と一致行動を執る事（二）小國の保護、戰爭防止に就ては米國其他聯合國と同樣の態度を執る事（三）日本の西伯利に於る秩序維持を必要とする事を承認する事（四）支那に於て日本の財政、商業、工業等の勢力範圍を認むる事（五）青島の永久占領（六）南洋獨領占領地保護權確定（七）全世界に日本國民の相互的權利を承認せしむる事等なりと（華盛頓電報）

◇我俘虜釋放要求
＝獨逸釋放回答＝

我政府は佛國政府を經て獨逸に俘虜となれる邦人の釋放を要求せるに獨逸より近く釋放すべき旨の回答に接せり邦人にして俘虜となり獨逸に在る者總數百五名なりと（東京電報）

◇平和會議委員未定
＝會議地は上海か＝

北方は平和會議地を上海とするに異議なきを以て同地に決す可し南方講和委員は双方共八名乃至十名なる可く而して南方講和總代表は唐紹儀氏にして北方は朱啓鈐、熊希齡氏等の中孰れかならん朱氏は既に拒絶し田氏は今尙承諾せざれば愈々決定を見るには尙一週間を要す可しと觀測さる（北京特電）

◇講和委員送別午餐會

講和全權委員牧野男以下隨員一同は五日午前十一時半外務省に參集し內田外相幣原次官埴原政務局長等列席の上渡歐準備其他に就き打合せを爲し正午右一行を正賓とし英、米、佛、伊各大使及び白耳義公使等を陪賓とし各大臣並に上原參謀總長、島村軍令部長及び外務省各局課長參列盛大なる送別午餐會を催し席上內田外相は一行の爲めに乾杯の辭を述べ牧野男の答辭ありて午後二時半散會せり（東京特電）

◇全國師團長參內

六日午前十時全國師團長參內軍事狀況に就き奏上す可しと（東京特電）

◇總督歸任期

都合により東京にて越年滯京中の長谷川總督は廿日過歸任新年の參賀を受一月十日頃再び上京の豫定なるも都合に依りては當地に越年の事となる可しと（東京特電）

◇林男北京出發

林前駐支公使は五日北京出發滿鮮經由歸朝の途に就けり（北京特電）

◇清津築港運動

清津港民は清津の死活問題たる築港に關し四日夜清津座に市民大會を開催し有志の演說ありたる後左の決議文を決議せり

戰局終りを告げ極東の天地將に多事ならんとする此時に當り我の關門たる清津港の築港は最も緊急なるを覺ゆ、仍て吾人は茲に市民大會を開催し本築港の速成を期す

右要路者に打電し盡力を請ふ所ありしが今後本問題に就いては輿論一致以て飽迄目的の貫徹を期す可く運動に着手せり（清津特電）

◎戰後の海運界
各國汽船復活

歐洲大戰の結果として戰時中一時一般貿易界より脫退し居たる各國の船舶は近く平和の克復に依り漸次從前の各航路に復航し來るべきは想像するに難からざる所なるが戰時中殆んど獨占的に世界の各方面に發展し活躍し居たる本邦海運業が之に依りて幾何程度の影響を被り今後如何なる變動を來すべきやを豫測するに先づ

▲東洋と歐洲間 の航路に於ては戰前本航路の經營に從事し居たる外國汽船業は十四社線にして內本邦と歐洲間に於ける旅客貨物の運送に就き比較的重要の地位を占めたるものは英國の彼阿船、香港線、ローヤルメール、ベンライン、佛國のメッサヂエリーマリテーム、獨逸の北獨ロイド、墺米郵船、墺國の墺太利ロイド、瑞典丁抹の東亞汽船の十社線なるが此中獨逸の北獨ロイド、墺米郵船、墺國の墺太利ロイド等は戰後の復活到底覺束なき事情あり左れば戰前既に其優秀なる所有船を以て極東航路を開始すべく着々準備中なりし英國キューナードの

▲東洋開航を見 又我が商船が歐洲航路を開始するも船舶の隻數上より見れば戰前に比して何等悲觀するの要なきのみならず其他各社の復活に就ても直ちに戰前の狀態に迄復歸するが如きことは殆ど不可能のことなれば此方面に於ける我海運業は尙相當の狀況を持續し得らるべし次ぎに北米航路に於ける戰前の主なる外國船會社は英國の加奈陀太平洋、桑港線、ローヤル、メール、米國の太洋郵船、大北汽船、獨逸の波米郵船等にして此中波米郵船は今後の復活不可能とするも戰時中多大の商船建造に努力したる米國は戰後

▲豐富なる船舶 を以て太平洋方面の航路開拓に鋭意すべく英國の各社亦順次復航し來るべきを以て此方面に於ける我海運業は今後非常の壓迫を被るに至るべし更に濠洲航路に於ては戰前は英國の東濠汽船、獨逸の北獨ロイド及我郵船會社の三社線存したるのみにて戰時中我大阪商船が本航路を開始したるも北獨ロイドの復活覺束なき以上今後とても左して大なる變動なかるべし最後に南洋一帶印度海峽植民地方面より北米に到る航路は戰時中本邦船舶活躍の中心を爲し居たるだけに各國船舶の復航に伴れ多大の影響を被るべきが併し既に

▲定期的の運航 を爲して多少の根據を固め居る船主に於ては之を維持し切るべき程大なる影響は無かるべし之を要するに戰後に於る我海運業は勿論各國船舶の航行に依り順次に壓迫を被り戰時中に於るが如き多大の利益は擧げ得られざるは明かなるも戰前の狀態に比すれば尙遙に有利なる狀況を繼續し得らるべく觀測さる（東京）

◎製鹽減と輸入
鹽價依然硬調か

本年の官鹽生產高は廣梁灣六千九百三十八萬八千四百斤朱安七百三十四萬五千百斤總生產額七千六百七十三萬三千五百斤にして昨年に於ける廣梁灣七千八百六十一萬二千九百斤朱安八百九十九萬九千六百四十斤合計八千七百六十一萬二千五百四十斤に比し一千八十七萬九千四十斤の減收を告げ、大正五年に於ける總生產額に比すれば約六十萬斤の增收なるが

▲昨年の成績 に比し斯の如く著しき減收を示したるは全く天候の關係にして製鹽事業の最盛期たる四月より八月に至る期間に於て大正六年度は七千百六十九萬三千八百九十斤を生產せるに拘らず本年は此期間降雨多く採鹹作業上多大の支障ありし結果僅かに四千九百七十九萬八千八百九十斤を生產せるに過ぎず其差約二千萬斤を示すに至れり幸ひに秋季に入り天候順調に經過し約一千萬斤を恢復せるも尙昨年に比し約一千萬斤の減收に終りたり官鹽生產斯の如く不振なりしに反し

▲外鹽輸入は 頗る活潑旺盛にして青島天日鹽四千百九十八萬九千百三十四斤、山東省天日鹽一億四千六百四十一萬九千二百九十四斤關東州天日鹽四千二十六萬三千三十二斤、奉天省天日鹽五萬二千四百九十一斤、內地煎熬鹽十二萬四千九百六十七斤青島粉碎鹽二十五萬二千斤青島再製鹽八萬四千斤臺灣天日鹽五千二百五十斤米國產鹽一千七百四斤合計二億二千九百十九萬一千八百七十二斤の輸入を見たり今最近四箇年間に於ける輸入外鹽の消長を見るに左の如し

年次	輸入數量
大正四年	一五三、七七五、一六〇斤
同　五年	二〇六、〇八八、四八一
同　六年	一八七、八三三、一九四
同　七年	二二九、一九一、八七二

卽ち本年は既往四箇年間中外鹽の輸入最も旺盛なりし大正五年に比し約二千二百萬斤の增加を示し昨大正六年に對比すれば實に四千餘萬斤の輸入增加に當り空前の旺盛を示したり是れ本年は鮮內官鹽の生產不況と鹽價高の結果當業者により續々見越輸入を企てられし結果にして假りに

▲鮮內消費量 を例年の消費額より推定し三億五千萬斤內外と見此等輸入鹽と朝鮮產官鹽八萬斤とを合算するも朝鮮內の需要を充たすには猶三四千萬斤の不足を訴ふる狀態に在り殊に朝鮮在來煎熬鹽は一般燃料騰貴の結果生產額激減せりと信ずべき理由ある外本年は一般農作物の豐收穀價騰貴等に伴ひ農家の經濟狀態近年稀有の良好に在り從つて二等鹽に比し一等鹽の需用盛んにして消費量の如きも例年に比し增加の傾向ある外鹽の輸入は今後引續き行はるべく鹽價亦依然硬調を持續すべしと觀測せらる、が彼の軍隊輸送等鮮內陸上運輸機關の支障により奥地に對する鹽の供給從來の如く意ならざりしを以て今後此方面の活躍を俟つて鹽取引界は更に一段の好況を呈するに至るべし

◎巨量の鐵鑛石
各製鐵所に供給＝麻生音波氏談

鐵の國內自給策を吾國で執らねばならぬと云ふ必要は今回の世界大戰爭が痛感さしてゐる、その結果內地鮮滿を通じ製鐵事業の勃興は目覺しいものがある、然し乍らその原鑛石の供給は必ずしも豐富でなく各製鐵所の鑛石を求むる聲は隨分高いのである予は多年朝鮮に於て鐵鑛の關係事業に從事し來り多數の許可鑛區を有すると共に各方面より有望鑛區數十區の買收を行つたから今後出來得る限り大規模に多量に內地各製鐵所に鐵鑛石の供給をなす事となつた之れ一は製鐵自給と云ふ國家的必要より又一は朝鮮鑛業の開發より及ぶ限り働かうと思つてゐる次第である

▲寶巖鐵山 鐵鑛石の採掘に予の主力を注がんとするは過般白川友一氏より買收せし咸南利原北青兩郡界に跨れる寶巖鐵山である、此鐵山の鑛石は赤鐵鑛含鐵平均六十五パーセント稀有の良品である、その採掘設備は同山より乾自浦まで二里の間に輕便鐵道を敷設して鑛石を搬出し乾自浦より鎭南浦に廻送し需要製鐵所に供給せんとするものであるが同山の鑛石は戶畑の東洋製鐵、折尾の日本製鐵、長崎製鐵、北海製鐵並に日本鋼管の各會社に供給の約成立し目下各種の準備を進めてゐるから八年に於て約十五萬噸を出し九年には二十萬噸を掘出する豫定である

▲安岳鐵山 予と淺野總一郎氏の共同經營となつてゐる黃海道安岳の鐵山は本年に於て五萬餘噸を八幡製鐵所並に三菱製鐵所に供給したが明年よりは更に大規模に採掘を進め八幡製鐵所を主とし海軍省の吳製鋼所、大倉組の山陽製鐵所戶畑の東洋製鐵所にも納附すべく引續き兼二浦の三菱製鐵所にも若干量を送る事となつてゐる

▲黃州价川兩山 黃海道の黃州郡天柱坊鐵山の鐵鑛は目下頻に輕鐵の敷設鑛石採掘その他の用意を進めてゐる此山からは八年に於て少くも六萬噸を掘り出す豫定で既に戶畑の東洋製鐵兼二浦の三菱製鐵に殆ど全量を供給すべく更に三井の价川鐵山の中間に存する一鑛區の鐵鑛石は三井系の北海製鐵會社に送鑛する方針を執つてゐる

▲更に擴張 右の外予の採掘許可を受けし鑛區並に買收せし鑛區の鑛石供給に關する小口の契約若干あり又鑛石採掘設備進行中のものも少くないが上述諸鐵山の採掘のみにて予としては先づ全努力を要する次第で自餘の鑛區は今後徐ろに經營を續けて行かうと思つてゐる。

講和後の東洋（七）
變局に善處する途
文學博士　澤柳政太郞氏談（其二）

斯くの如く日本人は遺憾ながら平和的の進展手段に就ては寧ろ不得手である。而して目下西伯利に於て吾人の戒心を要する問題はといへば宗教家學者が漸次西伯利に根蹤を占つゝあるといふ事實である。乃ち此平和的開發手段は、西伯利の地方民が利益を受くると共に米人自身も利益を收めるといふ、換言すれば所謂正義人道の爲めといふ立て前になるのである。若も之が武力であるならば

▲驅逐すること も出來るが、正義人道に對しては如何ともすることが出來ぬ。其れから又米國の資產家中には西伯利に移住して農業を營まんとするものに對して廉價にて農具を供給する。巨利を貪らずして、或は年賦にて貸與する。或は又西伯利に於る農業上の製產品は幾何程にても取るといふものもある。彼等は實に他を利する名に於て己を利するといふ遣方である。此の途は日本人の大に鑑みる可きである。要するに

▲日本人は永久 の利益よりも目前のことに意を用ふるの切なるものが多い。今日幸ひにして西伯利は日本の出兵の爲に秩序も漸く回復するに至つた。これは主として我國の力である。所が同地の開發の上に必要な人物は米國より遂らるるの事實を見てゐる。而して我日本人は得らるる利益をも得ずしてゐる。聞くところによれば支那に對しても結局かうした傾向に陷らんとしつゝあるといふことである。詰まりこれは東洋諸國の政治思想の流弊の發露とも稱すべきことで餘程此邊は歐米の巧妙な遣り方を他山の石として研究の必要があらう。須からく從來の態度を一變して

▲國際的知識 を高めて行くことにしなければならぬ。乃ち此の態度を改めるといふことも一度何等かの困難に遭遇しなければ、其の自覺心の念は容易に起るものではない。其時考へは變るものである。要之日本の將來東洋に處する第一の途は支那との國交を善くし益々其親善を期して行外は無いのである。（東京支局）

◎下關と鮮銀
井上營業課長談

支店開設に關する調査用務を帶び下關に出張中なりし井上鮮銀營業課長の談片に曰く下關と朝鮮との貿易關係は逐年附進の趨勢を示し本年の如き二千萬圓以上に達すべき狀態にあり今後一層增加するもの、如し

▲門司港の繁榮 隆々たるに伴なひ下關の商勢は稍もすれば壓倒さるべしとの說をなす者もあれど關門は兩地共に各進すべし何となれば關門兩地の商圈は自ら區域を異にし居れり乃ち下關は主として鮮滿方面にその地盤あり、門司は鮮滿以外の外國貿易地たりと云ひ得べく相互抵觸する點少なき如し今後鮮滿の開拓進展に伴なひ下關の交易狀態は尙ほ一進せん

▲下關は延長一里餘と稱するもその幅員は狹からず市街として狹少のものなり然も大銀行支店並に土地銀行多數營業を續け此の土地の狀況に比し銀行は寧ろ多きに過ぐる位やの觀ありつて各種の競爭は隨分烈しきものある如し、朝鮮銀行が下關に開店する事となるも必らずしも預金爭奪の如き渦中には投ぜず、爲替手形の取扱、鮮銀券の引換、兌換券の現送等內地と鮮滿支連絡地點として處理すべき業務ありと思惟す

◎京城籾賣買改善

京城穀物商組合にては從來籾の賣買が風袋の量目を合算したる斤量を以て行はれ居たる結果風袋に對する不正手段等の弊害を免る能はざるを遺憾とし豫て仁川穀物協會よりの照會もありしこと、て過般役員會の開催、當廳に對する請願等の曲折を經て今後籾の賣買は一切正味斤量に據つて取扱ふことに打合せあり既に客月二十五日より實施の運びとなれり卽ち京城に於ける籾賣買法の改善に依り從來の弊害を矯正し併せて之れが賣買取引の圓滑迅速を得ば幸甚となる所なりと係員は語れり

◎無錫米藁取引

米藁は繩、筵等として用ひらる、のみならず最近製紙原料又は人造棉花としての用途發見されたる以來江蘇省無錫附近に於ては米藁の價格頻りに騰貴し從來五百斤一弗見當なりしも昨今は二百斤一弗を唱へをれり、過日某日本商人上海より無錫に出張し苦心の結果漸く某商と賣買契約を締結し每月四萬擔輸出することゝなれり（上海）

◎福原中將入京

陸軍中將福原鐐太郎氏は五日午後七時二十五分着列車にて安東より入京天眞樓に投宿せるが兩三日滯在各所を視察すべしと

▲毛利男入京 滿洲視察よりの歸途五日夜入京朝鮮ホテルに投ぜり

◎ホークストフ氏視察 蘭領瓜哇の元工業專門學校教授ホークストフ氏は工業方面に關し精密なる調査を爲すため今回支那、朝鮮、日本內地及びフィリッピン等を視察の途にある一日夜入京二日總督府を訪問し小河原視學官の案內にて工業專門學校、高等普通學校、女子高等普通學校、於義洞簡易工業學校等を視察したるが氏は朝鮮が併合後八年にして如斯の進步を爲せるは總督政治の賜ものなりと稱讚し居たり

人事消息

▲櫻井庄平氏（新潟縣選出代議士）五日夜入京不知火へ
▲堀池富作氏（大邱辯護士）同上

◎……鳥瞰錄……◎

三十日朝鮮ホテルで開かれた漢城銀行東京支店の開業披露は特に朝野の名士を鍾め原首相以下各大臣名士百餘名の出席あり近來の盛會であつた事は當時の本紙にあつたが其情況を聞くに ▲韓頭取專務の韓相龍君が『支店を東京へ出すやうに成つたのは一に新政の賜であるが將來の成功と否とは是亦新政の惠に酬ひ得ると否との岐れ目であるから今後一層の同情を仰ぐ』と流暢な日本語で愛嬌を振撒き大喝采を博した ▲之に對し原首相は『自分は舊韓國時代から三四度も渡航して種々の變遷を見てゐるが鮮人の銀行が向上發展して遂に帝都の中央に支店を出すやうに成つたことを思ふと無量の感慨に堪へぬ』と述べ ▲澁澤男は鮮人の職業が此の目のやうに替はる間に韓龍君は十數年一日の如く同行の爲に盡した功勞を說き全で我子が立派に成人でもしたやうな喜びを見せた ▲他山本君の漢城銀行を十五銀行に見立てた演說目賀田男の演說など何れも日鮮人の親善が遺憾なく發揮せられてゐた

仁川期米

仁川米豆取引　五日の二節後場

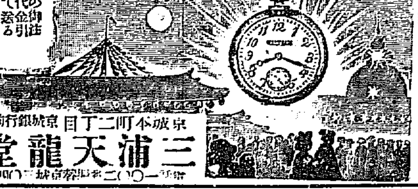
讀者課遞及び募集規定

時局映畫提供

人類生存の大敵として兇暴飽くなき某國は遂に屈しぬ正義の聯盟國は如何に至甚至大の犧牲を拂て此大捷を收めたるや　噫!!千古の大戰は如斯驚異の映畫を產めり

戰劇　世界の平和　全八卷
米國ゴールドウイン會社大傑作
シビリゼーシヨン以上の大作

松之助扇太郎合同劇　ニコ〳〵滑稽舊劇　太閤さんの腰巾着　會呂利新左衞門　五卷
滑稽大活劇　デブ君とチヤプリン君
特別興行　大正館



時計貴金屬指輪眼鏡商
地方の御注文は代金引換にて送る
京城本町二丁目　京城銀行前
三浦天龍堂

商業登記公告
株式會社漢城銀行水原支店登記事項中大正七年拾貳月貳日東京府東京市京橋區南傳馬町貳丁目參番地ニ支店ヲ設置シタリ
右大正七年拾貳月四日登記
京城地方法院水原支廳

耐水調革　新田帶革
販賣總代理店　北川本町四丁目　白神洋行
京城　黃金町一丁目　白神洋行支店

京城古市町電話一七四六　畑兄弟硝子工場

京日案內

◎內鮮人社員數名募集　京城花園町一〇七番地　淺野

女事務員入用　簿記に心得ある者但自筆履歷書携帶來談あれ　本町壹丁目　電話六九五　平田商店

店員入用　十七八才ヨリ廿四五才マデ　京城本町二丁目　大橋商店

看護婦及見習看護婦入用　希望者來談あれ　明治町二丁目　森醫院

寫眞修整技師至急入用　詳細は南大門通三丁目上田寫眞館へ御照會あれ

リノリユーム　特別價品あり　御希望の方は御照覧あり度し　京城本町二丁目　電話七三二番　伊藤看板店

卜居　京城本町四丁目一五五番地　電話四九八番　中村暉

李海鵬　春川郡新北面　父　觀鎔

貸家　數六（温突アリ）水道風呂付家賃二十二圓　明治町一丁目　電話一〇〇八番　共同社

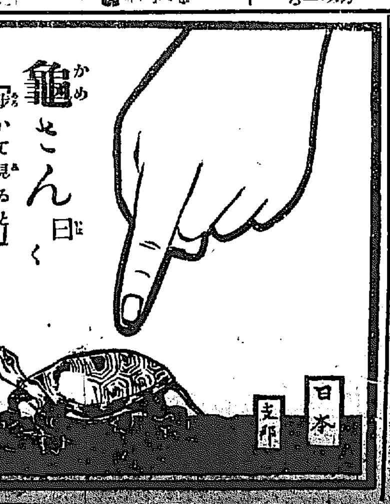
店員入用　年齡十六七歲の者にして市內に確實の保證人ある者　本町一丁目　電話一六三　佐野金物店

醫師代診生招聘　希望者は履歷書並に給料其他希望事項を記載し至急申込まるべし　平壤大和町　藤本病院

ほねつぎ　うちみくじき一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場

書畫骨董入札競賣會
期日　十二月七日（土曜日）下見（午前九時より午後四時迄）　十二月八日（日曜日）入札（午前九時より午後四時迄）同日開札
會場　於京城日報社來青閣（樓上）
某名士　書＝伊藤公書額仕立外數點　畫＝楊月筆（大黑天）秋草（抱一）雪齊蛭子（人物）外數十點
秘藏品　器物＝大象（床置）外十數點　刀劍關孫六兼光大外數點
上記の外珍品數拾點
京城大平通り　主催　合資會社　京城日報代理部　電話六〇〇番

漁網各種　撚糸綿撚糸、絹撚糸　撚糸機械　製造販賣
日本撚糸製網株式會社
大阪市西區北堀江川町百七十八番地（電話西八三七）　登錄受信電略オサカ、ニネセ　發信電略ニネ



亀さん曰く「歩いて見ると」「比較的小さな地球だ」と
終始一貫變らざる品質本位と顧客本位が今や全世界に認められ…………
專賣特許＝衞生完備
亀の子束子の販路は今や地球の西半球を半ばまで侵略しました…………
◆年末年始の贈答物には最も適當です◆
●お求めの節包裝束子とお指命下さい！
西半球
本舖　西尾商店

□愈よ勅許下る

王世子殿下の御婚儀

五日宮内省より發表さる

李王世子垠殿下と梨本宮方子女王殿下との御結婚の儀は五日勅許あらせられたる旨同日午後二時四十分宗秩寮より發表ありたり（東京電話）

（李王職發表）王世子殿下と梨本宮方子女王殿下との御婚縁の儀は五日畏き邊より勅許あらせられたる旨御沙汰ありたり

▽御納采は八日？

先づ王世子より姫宮へ
互に御正裝にて御取交し

梨本宮と李王家の御婚儀は愈勅許あらせられたるに付八日御納采の儀を行はせらる可く即ち王世子垠殿下の特使として高事務官は大禮服に正裝して鮮鯛、御樽及び帛の幣子を奉じて梨本宮家へ伺候すれば方子女王殿下には同じく御正裝大禮服に裝ひ給へる父宮、母宮兩殿下御立會の上之を納め給ふ夫より女王殿下の御使として同じく大禮服の南部事務監督若くは坪井事務官は幣子を奉じて王世子邸へ伺候し世子殿下は同じく御正裝にて之を納め給ふ御順序なりと承はる（東京特電）

▽御擧式の御日取

明年一月廿五日に内定

御擧式の御日取に就ては始め一月十五日說傳へられたるも其後御都合にて二十日過ぎ御擧行のの事となり更に廿五日に御內定の模樣に洩れ承はる（東京特電）

▽今後の兩殿下

國分次官談

國分李王職次官は語つて曰く『五日勅許ありたる後は梨本宮家、李王家に於る父宮、母宮の御役目は終らせられたるものにて之よりは王世子垠殿下、方子女王殿下御二方の御間にて種々の御儀執り行はせらる・事となるべし』と（東京特電）

▽勅許奏請

四日午前十一時朝鮮總督府囑託大木戸宗重氏は李王家の勅許願を奉じて宮內省に出頭し波多野宮相を經て畏き邊へ垠殿下御婚儀勅許の儀を伺奏せり（東京電）

◇勅許を得給ひし兩殿下

○革命婆さん東京著

◆花束を貰つて喜ぶ

露國の革命婆さんブレシコフスカヤは三日午前八時四十分東京驛著列車にて入京した雪の如く白き布を被つて其端を首に卷き肥つた身體に

★**黒い服**を著け足には踵の無い大きな靴も護謨が延てパク／＼した粗末な靴を穿きながら嬉しさうに二等車から出て來た其處へ日本基督教女子青年會の幹事なる内外夫人がドヤ／＼と押し掛て可愛らしい

★**花束を**贈つた手を差延ると婆さんは有難う／＼と存外小さい聲で愛嬌を振蒔き出迎への婦人達に手を引かれながら足並も元氣に盛んに喋る十三になるヤンクと云ふチェックの

★**孤兒は**お婆さんの孫と云ふ格で珍らしげに燥いで居た斯て婆さんは自動車で市ヶ谷田町三丁目女子青年會へ入つた（東京電）

○不思議な廻合せ

燒死した鈴木校長の事

常時も決死の覺悟を有つて居た

御眞影を奉遷せんとして悲壯なる最期を遂げた元町小學校長鈴木忠律氏につきては聞くも不思議な一場のローマンスがあるそれは同校長が

▽**信州上田**の小學校に次席訓導として奉職して居た時のこと、恰度今回のやうに學校から火を失し畏れ多くも御眞影を燒失した事がある、校長は恐懼措くところを知らず直ちて居腹して其罪を陛下に謝し奉つた、是は信州に於ける御眞影燒失事件として名高く誰一人として壯烈な校長の最期に感激し且

▽**同情の涙**を絞らぬものはなかつたが平素から人一倍誠忠の念厚く一言一行總て是を手本として居た眞摯なそして熱烈な鈴木氏は當時親しく此光景を目擊し

▽**身命を賭**して事に當る覺悟だ夫が教育家たる者の面目だと思ふと語つて居た、所が鈴木氏の言行は今日に至つて端なくも立派に一致し非常の際非常なる責任の爲めに可惜有爲の身を捨た然も夫が信州の小學校長、同じく學校の失火及び御眞影に關聯しそして同じく壯烈悲愴な最期であつたのは好く／＼

▽**不思議な**廻り合せと云はねばならぬ、同氏は仁川から鐵路小學校に轉じ鐵路から元町小學校に轉じたのであるが斯うした精神の立派な人であつたから非常に各方面の受けが好かつた、返す／＼も惜い人を殺したものである

○繭商殺し公判（續き）

檢事都野川に死刑、忠信に懲役二年を求刑す

＝判決は來る十日＝

裁判長は尙該事件の核心なる被害者鳥飼及び店員吉川を射撃したる當時の順序及び光景の審問を續く

裁判長『其時は殺す考へでやつたのだらうな』

被告『其時は無茶苦茶でありました』

裁判長『無茶苦茶と云ふ事があるか、軍人でありながら五連發の短銃を人に突き付けて殺す氣が無かつたと云つても問題にならんぢやないか、又警察でも豫審廷でも

▲**殺意があつた**と申立て、居るぢやないか』と一喝す

被告『夫はもう撃ちます時はそんな氣も出て居りましたが……』と聲を落す

裁判長『然うでなくちや出來るもんぢやない、▽其方は警察に於ては先づ吉川を背後から撃て次に鳥飼を撃たと申立ながら豫審廷になつてから先に鳥飼を狙つて放つたと申立て居るのは何う云ふ譯か』

被告『夫は初め極簡單に申上げたので聞き違ひをせられたのでせう』

▲**初めの一發は**狙つた譯ではありませんから……』

裁判長『其方の申立に依ると殺意は無かつた鳥飼が洋杖を振りあげて來たから撃たと云ふけれども達て鳥飼が抵抗したものとは想像することが出來ない、吉川を仆し續いて間髮を容れざる早さを以て鳥飼を狙撃したものとしか思はれぬ又吉川の中立に依つてもさうなつて居るぞ』

被告『只今となつてはさう云ふ風になつても……其當時の氣分は先程申上げた樣な次第で……』此時被告席に在りし

▼**忠信は何思ひけん頻に落淚**

して居た。それから約一時間に亘りて裁判長は證人參考人事件關係者等の申立てになる調書を被告兩名に示し十二時十分休憩を宣す。午後一時半再開都野川に對して裁判長より簡單なる審問ありて被告

▲**忠信の審問に**移り幼少時代や青春時代の問答を進む

裁判長『其方は二十歲の時初めて姫路で藝妓に出て藝名を『りよう』と名乘つたか』

被告『りようでは御座いません、長・郎と申しました』

裁判長『玉太郎は神戸に行つてからの藝名ではないか』

被告『いゝえ、姫路でも玉太郎で御座いました』

裁判長『夫から其處に一年許り居て次に神戸三ノ宮の東檢番に三年許り居つたな』

被告『ハイ』

裁判長『フウーム、神戸から岡山へ行つて山崎町の東遊廓檢番で二年許り勤め、此處で初めて

▲**忠信と云つて**朝鮮へ來て紅屋の抱妓になつても矢張り忠信で營業して居たな』

被告『ハイ』

裁判長『源繁は何處で習つたか』

被告『郷里で御座います』

裁判長『何もその女優の仲間へ這入つて稽古したと云ふことは無いんだね』

被告『ハイ』

裁判長『其方は大正二年五月文書僞造行使詐欺取財で罰せられたのは其方の

▼**生みの母の印判を偽造**

し母の名前を使用して、三百圓か何かで藝妓稼業をするとて公文書を拵へたから罰せられた譯か』

被告『ハイ』

裁判長『刑の執行猶豫になつて最早四年の期間が過ぎたから今日では其罪は無いことになつて居るんぢやな』

被告『左樣で御座います』

裁判長『本年三月に初めて被告義雄と契を結ぶことになつたのか、又其方が森病院に入院した時も費用は義雄が出して呉れた樣ぢやが其後其方は姙娠したと云ふことを義雄に話した趣ぢやが遊び無かな』

被告『ハイ』淚を拭く

更に被告忠信が

▲**都野川の胤を**宿せしや否かに就て證人の中立を參酌して審問あり都野川の犯行を知つて犯行當夜から諸所の料亭に於て會合せしや否やの問答あり犯跡の事實問題に入り

裁判長『九月二十六日に料亭江戸川でスガ子へ平壤で義雄から託された大金を渡した時何か話をしたか』

被告『唯忠告を早く渡して呉れツて云はれました、確に夫では、と云ひました』

裁判長『まだ何か云つたらう』

被告『否え、何も申しません』

裁判長『滿洲の方へ行くと危ないから大阪へ出でなさい、丁度

▼**十月には私の郷里の祭もあります**

から』と云つたらう』

被告『唯心配するとは無いよつて告がありましたと申しました』

裁判長『日本人の少い滿洲より東京か大阪が好いと云つたらう』

被告『………』

裁判長『何うか、大きな聲で云へ』

被告『ハイ』

裁判長『其方は司法警察官が調べる際に何故嘘を云ふたか、それで東京へ行つた云ふたか、大阪へ行つたことは初めから知りながら何故嘘を云つたか、結局今日となつては

▲**義雄の爲めに**ならんぢやないか、義理を立てるにも立て方がある、其方は此前も大病院へ出て初めて刑の執行猶豫にして貰つたのぢやらう、裁判所へ初めてでは無いから斯んなことは疾うに知つてるべきぢや』

被告『ハイ』

それから都野川が大阪に逃走の途中忠信の郷里兵庫縣島砂町に忠信の父を訪れ百圓を與へたるも後で贈物と判明して同人は其金を突き返したと云ふ事實を聞かされて忠信は手巾を目に

▼**顏を蔽ひ歔欷いた**

忠信の審問終りて直ちに立會檢事山澤檢事起つて『本職は是より本件に對する意見を述べます、昔清水貞吉なる名に於て恐ろしき短銃強盜と云ふものを記憶して居る、而して其恐ろしい悲慘な物語りの記憶はまだ私の腦裡を脱けない。然るに此の警察制度の完備せる現今の朝鮮に於て而も白晝公々然と此の兇惡なる短銃強盜が行はれ本職が茲に起つて意見を述べる次第となつたことを甚だ殘念に思ふ』と前提すれば

▲**傍聽人片唾を呑み**

嚴粛の氣分に滿廷緊張す。山澤檢事は語を繼ぎ『本件に就て意見を述ぶるに當つて先づ是を三段に區別する。第一、豫審終結決定書記載の如く犯罪事實の證據十分なりや否や第二、若し其證據十分なりとせば如何なる法律を適用すべきものなりや第三、最後に被告等は如何なる刑を課せらるべきものなるかと云ふことに就て述べんとするのである、順序として都野川に就て陳べん』決定書記載の事實中長島義雄なる名刺を使用し鳥飼を誘ひ出し是を商號山島に於て殺傷し金二萬六千圓を强奪した事實に就ては被告も認めたもの故多言を要せぬと思ふ唯本件は只今否認した點があるが、先づ原因に就ては本職も豫審判事と同樣の意見を持つて居る、被告は家族の救濟、債務の辨濟が本件の動機であつて忠信の身請けの如きは絶對に原因になつて居らぬと云ふ、成る程被告としては本件の如く慘酷なる行爲を敢てする位だから其原因が女の爲めと云はるゝ事は心苦しく

▲**恥しく感ずる**事だらう、然し以下本職の述ぶるが如き事實あるを如何せん、事實は飽く迄も事實である即ち被告は債務の辨濟と同時に否夫よりも以前に

▼**現に忠信の身請金を出して居る**

さうして第一に忠信に情を明かし不壞に忠信を呼び寄せて俱に逃げ終うせる相談をして居る、被告として夫が當然であつたらうと思ふ、しかし又被告から忠信に與へた數通の手紙に依つても、小蓮島れき、其の大小鹿島健吉の供述に依つても明瞭である、負債と云つても嚴しい催促を受けたものは被告の遊興費である、要するに本件の原因は此費用上或は非業の負債は其一部に過ぎずして九分九厘迄は

▲**忠信の身請け**の爲めだらうと思ふ』と義雄の中立ての曖昧なる點を一々指摘し更に殺害の意思が無かつたとの中立に就て一々剛論を擧げ『被告は相當教育を受け在鄕軍人の將校であり乍ら餘りに女々しい供述をする』と叱し犯罪事實は豫審終結決定書で充分なりと斷じ『次に忠信は令律りように就て述べる、被告は五百六十圓を收受し一萬三千圓を平壤から京城へ運搬したる事實、被告都野川の內地行きを助けて其法の適用に就ては豫審終結決定書記載の通り即ち被告義雄に對しては刑法第二百四十條、第百五十九條、第百九十九條、第百六十一條、第二百三條、第五十四條、第五十五條、第四十六條第十條を適用し、被告りように對しては第五十六條、第百三條、第五十五條、第四十七條を適用して處斷すべきものと考へる、而して義雄の性行に就いては裁判長より各方面の報告を讀まれた如く中學時代から常に小說に讀み耽り殊に尾崎紅葉作の金色夜叉を最も好み或る頁に於ては泣きながら讀むと云ふ程の耽溺の仕方であつた』と

▲**義雄の性格を**論述し被告は健實なる思想がなく架空的計畫の下に一攫千金を夢み濡手で粟を掴む如き事へで總ての仕事に掛つたものゝ本件の犯罪も被告の此性行が遠因をなして居ると思ふと斷じ被告忠信に就ては平常の

京城本町貳丁目遠元商行の毛皮製肩掛首卷類は今が品揃是非御來店あり毛皮晒油拵仕立毛皮裏地シヨール手袋帽子及物胴着袖なし其他 京城本町遠元商行 電話二〇六五

強情及び辛辣なる犯人隱避の事實を擧げ嚴烈火の如き論告を終へ我帝國司法權の權威、社會の

▼**安寧秩序の點よりして**

『以上を以て被告兩名に對する斷案を下す、被告義雄は

死刑

▼**被告りように對しては**

懲役二年

に處せられんことを求めます』と求刑した。此の時廷内の傍聽人は俄にザワめいて被告兩人に視線が集まつた。併し義雄は眉毛一本動かさず平然として居たが忠信は身を顫はせて嗚咽した

次いで內田辯護士は起つて義雄の爲めに懇切な辯護の勞を取り被告義雄には情状酌量すべき點あれば刑の適用に就ては最輕の刑罰に輕決ありたしと判官の同情を求め次に臼井辯護士は被告義雄の爲めに辯論大いに努め被告の精神狀態、犯行後の謹慎等を整然と陳べ『以上の事實に依つて被告本人が初めから人を殺す積りでなかつたことは明かで、最後の結果は惡むべき強盜殺人ではあるけれども其半面の心理狀態、犯罪の動機等に就ては充分に酌量すべき點があると思ふ要するに被告義雄は社會より絕對的に隔離し葬り去らなければならぬものではない……』と結論し

▼**法の許す範圍に於て**

刑せられたしと陳べたり。次いで被害者鳥飼武次郎未亡人より訴訟代理人を通じて被告義雄に對する遺族慰藉料千圓、家族扶養料及び中學料一箇月二十圓、子弟教育費十圓の請求私訴あり尙最初は被告に對し合計六千三百七十五圓の請求を爲す筈であつたが被告に同情して敘上の額に改めたのだと云ふ被告義雄は右の請求を臼井辯護士に一任し裁判長閉廷を宣す。時に午後五時、被告兩名に對する判決言渡しは來る十日の筈である

▲正誤　五日夕刊二面所載繭商殺し公判記事中田中辯護士とあるは內田辯護士の誤植に付正誤す

○鐵道院殉職者追悼會

遺族千三百名

鐵道院の殉職者追悼會は四日東京驛前廣場にて擧行殉職者千數百名の名簿を備へ祭祀の遺族千三百餘名參拜あり床次總裁以下理事列し非常の盛儀なりき（東京特電）

今曉元町二丁目當組所有家屋附近出火ノ際ハ早速御駈付被下御盡力ニ預リ奉鳴謝候混雜ノ場合御尊名伺洩モ可有之ニ付不取敢紙上ニテ御禮申上候
十二月五日
龍山　松本組

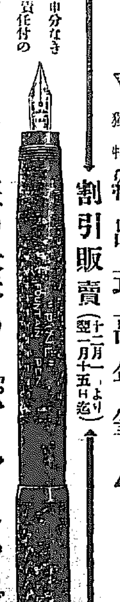
東京日本橋元大坂町　高木與兵衛
懷中要藥　清心丹
氣分を爽にし船車の不快、過酒食、嘔吐下痢、時候アタリの豫防、胃腸を健にし消化を進め赤痢、コレラ、腸チブス等の豫防となる

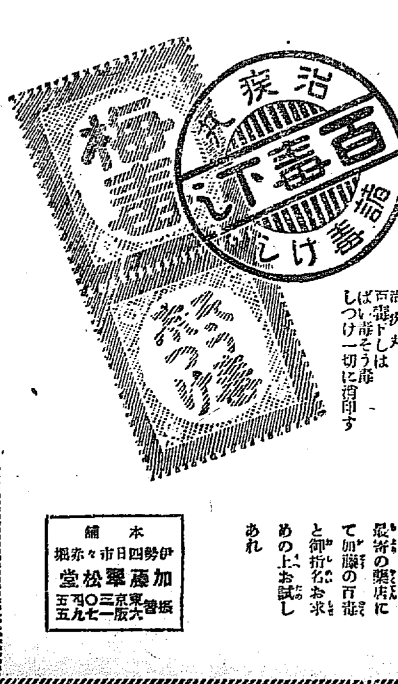
痔疾專門　京城久枝肛門病院
京城明治町二丁目（本町より入る中央）電話一一〇二番
院長十二月中旬より出張撫定の患者の都合に依り當分出張を延期す

日本優等清酒

攝津灘　花木本家釀造
特約販賣京城　島屋本店販賣部　電話九〇三番
フクムスメ

京城櫻井町（大正館隣）
滿田齒科醫院

▼パイン獨特　繰出式萬年筆▲
割引販賣（十二月一日より翌一月十五日迄）
一點申分なき倫迄責任付の

書くに自由自在の快味あり『パイン』にあらざれば眞の萬年筆を語るべからずとの定評あり
定價　最新繰出式金飾付　六圓八十錢　同　八圓八十錢
割引價　最新繰出式金飾付　五圓八十錢　同　七圓八十錢
此際此の御愛顧に酬ゆる爲前記の通り割引販賣致候續々御用命願入候
發賣元　京城太平通（電話長六〇〇九番・振替京城三〇〇番）　京城日報社代理部



治疾丸　百毒下しはばい毒そう毒しつけ一切に消す
最寄の藥店にて加藤の百毒下しと御指名お求めの上お試しあれ
本舖　伊勢四日市　加藤翠松堂　振替東京三〇七一五　大阪六九五

母と子

四十三

秘書役(五)

北島春石作 森田久畫

『さうだ！この場合、多少は世間や親に心配をかけようとも、我々は自らの將來を考へんぢやならん』

『ですからさ、佐久間さん。』と、淡紅子は鼻聲で肩を聳すつて『貴郎にお考へがあるなら聞かせてね。』

『うむ……その考へはなきにしも非ずだが。』と、四隣に聞く人もなきに聲を打秘め『いさゝか冒險的性質を帶びてゐるが、淡紅子さんの決心一つで……一萬圓の金をそつくりとは巧く行くまいが、確かに五六千圓は纏めて攫める目的があるんだ。』

『まあ、それだけのお金があれば……お互に苦勞をしなくても濟むんですね。』と、女ながらも慾に眼を光らせて『何うしたら、わたしの手に入りますの。』

詮一は再び四邊を見廻したが、茲に於て隼の如き眼は爛々たる怪光を放つ。

『實は目下僕が勤めつゝあるのは淡紅子さんも知つての通り、日鮮興業會社と云ふので、その社長は神崎昇一郎……今年卅五歳にもなりながら、今まで獨身生活をつゞけて來たのは、所謂帶に短し襷に長しで、天下廣しと雖も氣に入つた妻君がないと云ふ。其神崎社長が何處で見かけたものか、そんな細かい話は聞き洩したが、要するに志保子さんを一目見るやぞつこんばかり戀風が身にしみたと云ふ譯なんだ。そこへ、狡猾の野幇間が言葉たくみに結婚問題を持込み、今日うまく〳〵と一萬圓を捲上げた……ね、その金は貴女のお父さんの懷中を温めてゐる。然し、先刻からの話に依れば、伊豆の伊東へ轉地療養中には非ずして、志保子さんは家出をしたまゝ目下行方不明との事。して見れば二人は共謀して詐欺横領を働いたので、その一萬圓は不正不義の結晶物とも云ふべきだから、それを此方へ拜借して新婚旅行の費用とすると共に、尤も有利なる事業に投資する……而うして茲に三年五年と經過したる後、それ相應な利息を添へて返したらば、まさか親子の仲で窃盜の訴へも起さんでせう。何うですね、淡紅子さん。』と立板に水の流るゝが如く說き立て說き去つて『貴女にはその大英斷が遣れますか。』

『まあ、お父さんはなか〳〵の惡人ね。』と、淡紅子は息を呑んで『あの姉さんを一萬圓で賣付けるなんて……それも手許に品物があるんぢやなし、隨分酷いことをしたものね。』

『だから毒を以て毒を制せんとするんだ。假にその金を無斷借用すればとて、我々の行爲は公明正大俯仰天地に恥るところがないから二人の新運命を開拓せんがため、一つ大奮發をして見ませんか。』

『さうねえ。』

『こは心細い御挨拶だな。』と詮一は元の冷淡な態度に還り『それが斷行されんとすれば我々の戀も今日を限りに破滅するんだ。』

戀と愛――いづれが重きかと考ふべき判斷力も失せて、淡紅子は唯一途に男の心に縋つた。

『ね、遣つて見ませう！わたし、立派に斷行して見せるわ。』

『偉い！』と、にやり北叟笑して『それでこそ、僕が滿腔の愛を捧げる淡紅子さんだ。』

『あら！其麼に煽動しちや厭よ』

『いや、僕はお世辭が使へぬ性質だから、たゞ心にあるまゝを披瀝するんです。』と、猶言葉を添へて『然し、それは一日も早く決行なすべきで……他にもいろ〳〵相談があるから、これから例の處へ行かう。』

『ね、今日はね、歌留多の練習に出かけた事になつてるから、いつもより遲く歸つてもいゝのよ。』

『はゝ、近頃はなか〳〵拔け目がなくなつたね。』

『みんな誰かのお仕込みよ。』

『如うだか……怪しいものさ。』

『何とでも勝手に仰有いよ。』

兩人が仲睦じく肩を並べて立去ると、傍の植込を押し分けて現はれたのは森泉直樹であつた。彼は屹と兩人の行方を見送つて、

『うゝむ―怖るべき陰謀を聞いたものぢや。夫にしても、如何にも氣遣はるゝは志保子達の身の上……これや滅多に油斷がならんぞ。』

◎炬燵へ子供を寢かすは

親が周到な注意をしないと害になる

炬燵が衛生上害あることは云ふまでもありまんが殊に乳呑兒を炬燵で寢かす時親達の不注意のために炬燵から發する瓦斯(酸化炭素)の爲に中毒死を起すことが往々あります

▲兎角寒からうと云ふので炬燵の入つて居る寢床の中へ乳呑兒を深く引入れて寢かしたがるここは親の情として然るべきことですが此場合は最も危險で炬燵內の炭火から發生する酸化炭素が覆ひ蒲團と兒體との間から外部に放散する際子供が吸入する爲に知らず〳〵恐るべき中毒を起します

▲一體此酸化炭素は炭火の燃燒する折に發する瓦斯で空氣百分中〇、二五乃至〇、五を含有して居ても人命に害を及ぼす程の有毒なものでかの炭火をカン〳〵起して一室內を閉ぢ込めて居た爲に窒息した例は度々あります其量が少くて窒息せぬまでも暫く此瓦斯を吸入すれば眩暈や嘔吐を催しますそんな有害な瓦斯で充滿した寢床の中に繊弱い子供を無雜作に寢かして置くのは考へものです

▲それで成るべくならば炬燵代りに湯タンポを使へば安全ですがそれも面倒で炬燵で寢かす場合には子供の顏が蒲團の外に出るやうにして直接瓦斯が子供の鼻口に接しないやうにしますそして蒲團の後の方を少し開けて空氣の流通を宜くし蒲團內の瓦斯の放散を助くることが必要です

▲よく家庭では寒いと云ふては蒲團の隅々を押へ付けたり火が速く經つて不經濟と云ふので蒲團に空隙の無い樣にしますそのために蒲團內の空氣の流通が惡くなり炭火の燃燒を妨げて一層多量の瓦斯を發生します

▲此瓦斯は木炭燃燒の不完全な時に發生するものですから炭を眞赤な火にしてから炬燵に入れると瓦斯の發生も少くなります尚ほ火傷の注意も肝要ですが炬燵が熱過ぎて子供が安眠せなかつたり口が渇いて其の結果餘計に乳を呑み消化不良を起すこともありますから時々溫度を計つて見ねばなりません

▲以上は抵抗力の弱い乳呑兒時代に最も注意すべきことで四五歳位になれば苦しければ自分に勝手に乘り出しますから比較的危險は少いとは某子供研究家の實驗談です

美しい押繪

維新前迄は各家庭で

＝女子供の趣味の一つ昔から羽子板の店が美しく飾られます、昔江戸繪と謂はれ錦繪と謂はれた押繪細工は似顏の歌舞伎狂言、當り役の繪姿が大層喜ばれて居ります、中頃錦繪の名は木版刷の彩色畫に取られて了ひましたが此の押繪は今に美しい婦人の趣向として殘つて居ります、扨て此押繪と申しますものは厚い紙を種々に切抜き刷毛で色を措込むのが初めでしたが、夫れが段々進歩して金襴とか緞子とか、縮緬などで包み貼合せ之に高低をつけたものです、花鳥、人物などを之で細工立てますと誠に綺麗なもので維新前までは大抵の

▲家庭に行はれ、之で簪箱や針箱、針入、紙入、楊枝入などを拵へたものです、小切れの廢物利用に、誠に趣味の深いものです、押繪のこしらへ方は先に繪を擇び厚白紙の上にあて、篦で筋をつけ印のついた通りに少し餘地を下の方へつけて切りぬき、各部のひだとなるべき處に注意し其色の

▲配合に隨ひ其切を二三分大きく切るのです、糊は其のコバに附け布は裏面へ返して貼り鏝をかけて皺を伸ばします、ひだを作る時には反對にならぬやうに注意が肝要です、重ねることを『重かけ』人形の形に作ることを『人形仕立』人の顏などに髮をつける場合一寸筆を用ゐて生え際を書くことを附合せと申しますいろ〳〵工夫を凝らして試みて御覽なさい誠に面白いものです

新刊紹介(到着順)

▲文化運動(改題記念號) 第三帝國の改題せるものにして爾今福來博士其他の主唱に成る日本人文協會の機關として刊行せらるゝものなる由吾人の信條、福來友吉(福來博士)日本文化史論(佐藤博士)讀心術(福來博士)其他知名の學者教育家専門家文士の執筆に成る有益多趣味の記事を滿載す(四十錢 東京牛込揚場町日本人文協會)

▲女の世界(十二月號) 女性中心の趣味文藝から得た感じ、人爲の美と醜と、より日本婦人へ、價格、新しくなつて來た夫、總の文使切手の貼り方、女藝人時さ皆、或女の手紙、[illegible]

▲世道(研究十二月號) 吉人常讃、[illegible]東京麹町有樂町一の四 世之世界社

▲電氣界(十二回記念號) 六十錢 大阪北區若松町二六電氣界社

▲日本魂(十二月號) 二十錢 東京々橋區三十間堀三の七 社

▲實業之青年(一二) 十六錢 東京芝區濱松町一七 社

▲東洋時報(二四二) 五十錢 東京麹町內山下町一の一東洋協會

▲東洋皮革新誌(一六八) 十錢 大阪東區淡路町二の七七 社

▲極東時報(八〇) 純佛文、五十錢 東京麹町內幸町一の五 社

▲考へ方(一二) 二十一錢 東京神田區神保町一三 研究會

▲報德(八の一二) 八錢 鹿兒島市山下町三九五 鹿兒島市報德會事務所

○りん病根治器 淋病が尿道に傳染すれば忽ち粘膜を侵して淺部硬結等の病竈を形成し一方に無數の細尿道分泌腺內に深く侵入して繁殖し其孔口は粘液と膿等に塞がれ如何に强力なる殺菌劑も浸到し能はず只粘膜面を治すのみなれば根治至難なり然るに今回東京市京橋木挽町新療法研究所の發明に係る淋疾根治器は右の巢窟を破壞し深部の病菌を壓出し悉く吸出し藥劑にて難治の淋病も根絕し全治に至らしむると云ふ因に婦人のこしけ治療にも同樣の効あり詳細は同所に照會すれば說明書を送る由なり

◎教員檢定改正

選びに至らずして來れるも最近又文部省[illegible]改正の必要を[illegible]ならず依つて良教育を得る方法と[illegible]して國語と漢文とは二科目とし別[illegible]ものなり(三)教員檢定試驗を受くは免狀授與の標準の不公平を示す[illegible]

鑛業登錄

居れりと(東京)

三十八萬三千八百八坪 岡部綱吉、山川鋼作、松居政市

八十六萬八千五百九十一坪 同

[illegible]合祥山官七面

演藝

▲大正館 六日より特別大[illegible]主なる寫眞は米國ゴードゥ[illegible]れの悲劇者なりと開演中は大人氣な[illegible]すべし

當銀行ハ預金貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行 振替貯金口座京城三三三番 電話六〇一、六〇二番

支店 東京、大阪、神戶、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎮南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、濟南、滿洲里、齊々哈爾、大連、青島、長春、開原、四平街、旅順、遼陽、吉林、哈爾賓、營口、傅家甸、龍井村、鄭家屯、上海、天津、嶺鐵

出張所

右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

內科 胃腸病 診察夜九時迄

京城本町一丁目 石川醫院 電話一二三七二、一二九〇九番

味噌の横綱 ほまれ味噌

いちばんよくきく アレ止は クラブ洗粉本店謹製の

クラブ美身クリーム

此のクラブ美身クリームは素顏の美を增し白粉の附を良くする品質第一のアレ、ヒヤケ止にして畏くもたるの光榮を辱うしつゝあり。

皇后宮職御用品

藥草 淫羊藿エキス

●聖代の光澤に浴し埋れた穩れた藥草に花咲く時節到來せり ●水澤の達せぬ深山の絶頂、自生する神秘的藥草のエキスなり

●藥草は必す三枝九葉を眞くを瑞は二々九度に暗合して目出度 ●人參エキスを凌駕し取つて代はる時期めるべしと思はる

定價 廿五入 金壹圓 卅五入 金壹圓五十錢 四十五入 金壹圓九十錢 五十五入 金貳圓三十錢

送料 市內 二錢 外 三十錢

全國一手販賣 朝鮮京城府太平通一丁目 合資會社 京城日報社代理部 電話長六〇〇九番ノ三構內一八番 振替貯金口座京城三〇〇番

京城特約店 山岸天佑堂 京城特約店 北島支店

りん病 ばいい毒 ルーデサック

本藥は殺菌力强大にして些の副作用なく急性慢性淋病及び各種梅毒性諸疾患に治療の目的を達す

淋病特効一週分 普通貳圓 特製貳圓五拾錢 梅毒特効一週分 普通壹圓二十錢 特製貳圓

女用一個特製七十錢 男用一打四拾錢 其他各種(送料要) 驅形珍一個廿五錢 製六拾錢

京城永樂町二丁目交番北 東京ドラッグ商會朝鮮本部

尼崎汽船出帆

仁川

群山下關大阪直行 秀吉丸 十二月 日後四時出

鎮南浦行 赤城丸 十二月 日後四時出

群山木浦下ノ關大阪行 大有丸 十二月十一日後四時出

君が代丸 十二月十一日後四時出

仁川海岸通二丁目(電話五九番) 高杉回漕部

大阪商船出帆

(仁川出帆)

群山大阪行 ✕安東丸 十二月一日 正午出

木浦大阪行 ✕信濃川丸 十二月四日 正午出

(元山出帆)

浦潮行 ●安平丸 十二月十二日後十二時

釜山、門司、宇品、神戶、大阪行 ●宮島丸 十二月六日後九時出

(大連出帆)

上海、基隆、打狗行 ●湖北丸 十二月十八日前六時出 ●基隆丸 十二月四日後六時出

內地各港出帆主要航路

歐洲行一年四回 北米行毎月二回

南米行一年四回 孟買行毎月一回

濠洲行毎月一回 南洋行毎月一回

御注意

◎外國航路乘船ノ節ハ五分引キ以テ連絡切符發賣仕候◎朝鮮鐵道及南滿洲鐵道切符下ノ關連絡一切符發賣仕候◎乘船ノ方ハ本社車船出帆時間御問合ハ寄ノ一等客御無斷所ニ△印船客御賣取致候✕印ハ一等客御取扱ヲ爲サ

大阪商船株式會社仁川支店 電話三三番二一〇番五五〇番

京城 切符發賣所 內國通運會社支店 電話七〇八番

仁川 驛前 仁川本町二丁目 大田組 電話二六一番

驛前 仁川港町一丁目 組 電話四二番

(?)回漕店 電話七二番

🏁朝鮮郵船出帆

天候ノ都合ニ依リ發着日時變更スル事アルベク之ニ付テ詳細ハ本社又ハ各地支店代理店ニ御照會ノ上承合被下度候

▲敦賀行 清津發、城津、元山、經由 平安丸 十二月十四日 清津發 十二月十七日 元山發

▲浦汐行 大阪發、門司、釜山、元山、城津、清津經由 平壤丸 十二月九日 釜山發 十一日 元山發

▲雄基行 關門發、釜山、各港經由✕印 原道寄港セズ 京畿丸 十二月十一日 釜山發 十四日 元山發 成鏡丸 十二月八日 釜山發 十二日 元山發

▲元山雄基線 元山起點各港經由雄基往復 穩城丸 十二月九日 元山發

▲大阪行 浦潮發、元山、城津、元山、釜山 關門、神戶經由 越後丸 十二月八日 元山發 十八日 釜山發

▲關門行 雄基發、清津、城津、元山、各港經由✕印ハ江原道不寄 山陽丸 十二月十四日 元山發 十七日 釜山發 ✕成鏡丸 十二月四日 元山發 十日 釜山發

▲金剛山遊覽便 元山發長箭經由長箭行月六回但自六月至十月間

▲鬱陵島行 釜山發浦項及各地經由 盛德丸 十二月十日 釜山發

▲釜山浦項線 釜山發長生浦、九龍浦、甘浦經由 浦項相互ヨリ毎日一回出帆

▲濟州島行 釜山發長承浦、麗水、巨文島經由 昌平丸 十二月八日 釜山發

▲濟州島行 木浦發東廻ハ所安島經由西廻ハ鳥島楸子島經由 東廻 公州丸 十二月九日 西廻 慶興丸 十二月十二日 木浦發

▲釜山麗水線 釜山、麗水間往復 釜山、麗水相互ヨリ毎日一回出帆

▲木浦麗水線 釜山行麗水ニテ接續 順天丸 十二月十日 木浦發

▲多島海行 木浦發多島海各島行 慶興丸 十二月十四日 木浦發

▲木浦行 仁川發各地經由 江田島丸 十二月十六日 仁川發

▲海州行 仁川發江華島西村島經由 仁川、海州相互ヨリ毎日一回出帆

▲鎮南浦行 仁川發各港經由 晋州丸 十二月十日 仁川發

▲大連、青島行 仁川發芝罘經由 江原丸 十二月七日 仁川發

鐵道及社外船ト荷客連絡ノ便アリ

本社 京城南大門通 電話長一九五二、二二二三

支店 釜山、元山、仁川、木浦

出張所 山、海佐、群山、代代理店

釜山 ✕店 元山 山口回漕部 仁川 野回漕部 木浦 原運送店 京城 荷客取扱店 松 京城(?)取扱店

其他各寄港地ニ荷客取扱店 電話長一一七〇